

Unify ACCELL/Web™

ACCELL/Web Application の構築



© 2001, 2002 Unify Corporation. All rights reserved. Sacramento California, USA

Publications team Natalie Calkins
 Linda Costello

No part of this document may be reproduced, transmitted, transcribed, stored in a retrieval system, or translated into any language or computer language, in any form or by any means, electronic, mechanical, magnetic, optical, chemical, manual or otherwise without the prior written consent of Unify Corporation.

Unify Corporation makes no representations or warranties with respect to the contents of this document and specifically disclaims any implied warranties of merchantability or fitness for any particular purpose. Further, Unify Corporation reserves the right to revise this document and to make changes from time to time in its content without being obligated to notify any person of such revisions or changes.

The Software described in this document is furnished under a Software License Agreement. The Software may be used or copied only in accordance with the terms of the license agreement. It is against the law to copy the Software on tape, disk, or any other medium for any purpose other than that described in the license agreement.

The Unify Corporation Publications Department values and appreciates any comments you may have concerning our products or this document. Please address comments to:

ACCELL/UNIFY Product Manager
Unify Corporation
2101 Arena Blvd. Suite 100
Sacramento, CA 95834-1922

(800) 468-6439
(916) 928-6400
FAX (916) 928-6406

UNIFY, ACCELL, VISION, and the Unify Logo are registered trademarks of Unify Corporation. DataServer is a trademark of Unify Corporation. UNIX is a registered trademark of The Open Group in the United States and other countries. The X Window System is a product of the Massachusetts Institute of Technology. Motif, OSF, and OSF/Motif are trademarks of Open Software Foundation, Inc. SYBASE is a registered trademark, and SQL Server, DB_Library, and Open Server are trademarks of Sybase, Inc. INFORMIX is a registered trademark of a subsidiary of IBM. INGRES is a trademark of Computer Associates International, Inc. ORACLE is a registered trademark of Oracle Corporation. Sun is a registered trademark, and SunView, Sun_3, Sun_4, X11/NeWS, SunOS, PC_NFS, and Open Windows are trademarks of Sun Microsystems. All SPARC trademarks are trademarks or registered trademarks of SPARC International, Inc. SPARCstation is licensed exclusively to Sun Microsystems, Inc. Novell is a registered trademark of Novell, Inc. Macintosh is a trademark of Apple Computer, Inc. Microsoft, MS, and Windows are registered trademarks of Microsoft. All other products or services mentioned herein may be registered trademarks, trademarks, or service marks of their respective manufacturers, companies, or organizations.

Part number: 7836-03

目次

はじめに	1
ACCELL/Web とは?	2
アプリケーション・モデルの比較	4
各フォームは JSP ページになる	5
マスタ・アプリケーション・フォーム	6
メニューの再配置	6
ラインとボックスストリムの削除	6
前フォームの非表示	7
フィールド・セクションの始動	7
セキュリティの考慮	8
繰り返し領域	8
システム要件	9
Web ブラウザのサポート	9
ACCELL/Web のインストールとライセンス	10
変換プロセスの概要	11
ACCELL/SQL アプリケーションの準備	12
アプリケーションの調査	13
アプリケーションの実行	13
表示に関連した属性	13
ENABLE ZOOM 文の REPEATING 句	14
マスタ・アプリケーション・フォームのシステムフィールド	14
プロンプトとメッセージの専門用語	14
外部アプリケーションの起動	15
作業ディレクトリ	16
yesno\$() ダイアログ	16
printf () フォーマット	17
カスタムマネジャー	17

アプリケーション・ファイルの位置	18
デザインの決定	19
繰り返し領域についての決定	20
遅延フィールド・イベント処理の有効と無効の決定	23
スタイルの決定	25
プリファレンス・ファイル	26
プリファレンス・ファイルの作成	26
プリファレンス・ファイルの表記法	27
フォーム・スタイル: 標準とズーム	27
フレームセット・テンプレートの指定	29
ユニファイが提供するフレームセット	29
フレームセットのカスタマイズ	31
フレームセットメニューページ	31
背景色と壁紙の選択	33
ラベルスタイルの選択	34
繰り返し領域のバックグラウンドと境界の選択	36
アプリケーションの変換	37
アプリケーション変換ファイルの設定	38
APP2JSP 変換ユーティリティの実行	43
構文	43
引数	43
説明	45
例	47
出力ディレクトリを理解する	49
変換したアプリケーションのテスト	52

変換したアプリケーションのカスタマイズ	54
Web アプリケーション・ファイルの出力	55
生成されたフォーム固有ファイル	55
変更可能な Web アプリケーション・ファイル	55
変更不可能な Web アプリケーション・ファイル	56
デザイン・エレメントのカスタマイズ	57
マクロメディア Dreamweaver UltraDeveloper の使用について	57
ラベル・スタイル	58
イメージボタン	62
フレームセット	63
読取り専用フィールド	64
繰返し領域リストボックス	66
遅延フィールド・イベント処理	67
ファンクションキーの割当	68
カスタム・コマンド	68
カスタム・クライアント・サイドの確認	69
フィールドのカスタマイズ	69
accelManager.input	69
HTML 入力エレメント	70
アプリケーション配置の準備	72
プロパティ・ファイル	73
ファイルの階層	73
アプリケーション全体のプロパティ・ファイル	74
ファイルのフォーマット	74
ACCELL/SQL 環境変数設定を継続する	75
ユーザ設定プロパティ・ファイル	75
ロケール	76
プロパティ	78
Accell.Debug	78

Accell.DebugTTY	78
Accell.Encoding	78
Accell.Environment.ACLPATH	79
Accell.ExitText	79
Accell.FindLimit	79
Accell.Host	80
Accell.Link	80
Accell.Manager	80
Accell.OptimizelImages	80
Accell.Port	81
Accell.RunAsUser	81
Accell.Schema	81
Accell.ValidateUser	81
Accell.WorkingDirectory	82
パッケージの作成	83
WAR ファイル	83
ディレクトリ	83
アプリケーションの配置	84
配置環境の準備	85
Java アプリケーション・サーバと Web サーバホスト	85
ACCELL/Web アプリケーション・サーバ (AWAS) ホスト	85
Root ユーザ /Root ユーザ以外の ADMN の動作	86
手動で ADMN を起動	86
ADMN の停止	87
ユーザ設定プロパティ・ファイルの配置	88
Unify eWave Engine	90
サブレット管理ツールへのアクセス	90
Unify eWave Engine でのアプリケーションの配置	91
チュートリアル Web アプリケーションの表示	92

アプリケーションの実行	93
アプリケーションの実行.....	94
ログイン.....	94
アプリケーション・フォーム.....	94
ナビゲーション.....	94
クライアント・サイドの認証とフォーマット.....	95
変換されたアプリケーションの管理	96
ACCELL/Web のアップグレード.....	97
変更不可能なリリース・ファイルのみのアップグレード.....	97
変更可能および変更不可能なリリース・ファイルのアップグレード.....	97
アップグレードする際にフォーム・ファイルに生じること.....	98
新しいフォームの追加.....	99
フォームの変更.....	100
付録 A : デバッグ	101
付録 B : エラーメッセージのローカライズ	103
付録 C: Q2JSP でのフォームの変換	105
Q2JSP 変換ユーティリティの実行.....	106
構文.....	106
引数.....	106
説明.....	108
例.....	109

はじめに

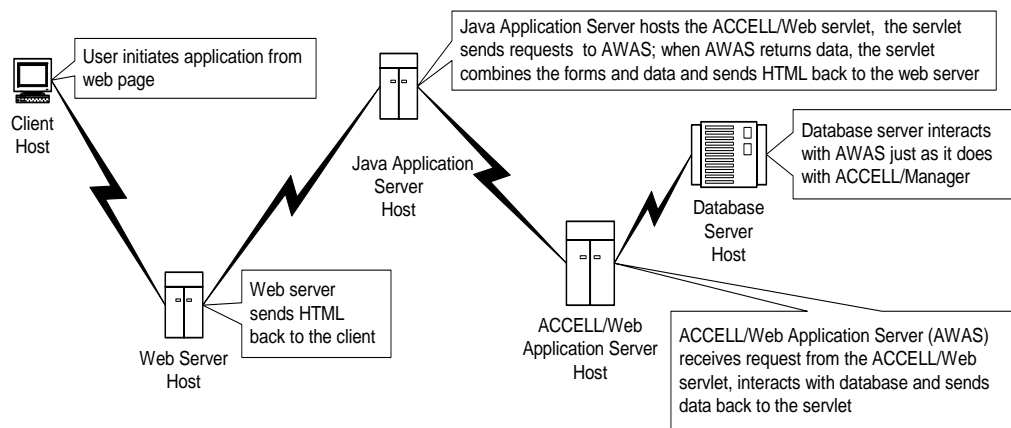
この章では、ACCELL/Web 製品の紹介、および ACCELL/SQL アプリケーションを変換するための概要を説明します。

ACCELL/Web とは？

ACCELL/Web は、ACCELL/SQL アプリケーションを Web アプリケーションに変換することを可能にします。ACCELL/SQL アプリケーションのプレゼンテーション・レイヤ、基本的なスクリーン・フォームが JSP ページになります。ACCELL/SQL アプリケーションのフォーム・スクリプト、およびデータベース・レイヤは元のままです。JSP ページは、動的なコンテンツを表示するために埋め込まれる特別なタグを備えた標準の HTML ファイルです。ユーザは、Web ブラウザで JSP ページを表示します。

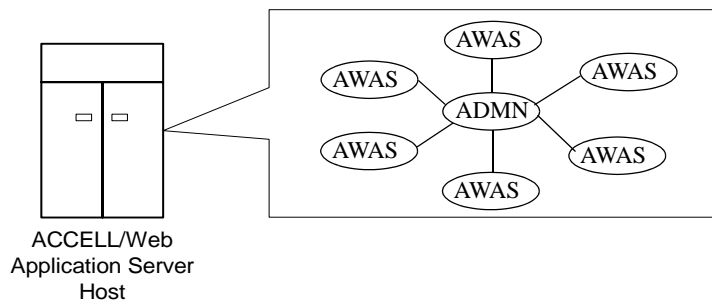
ACCELL/Web は、AWAS (ACCELL/Web アプリケーション・サーバ) を含みます。AWAS は、ACCELL マネージャによく似ています。ACCELL マネージャと同じ方法でフォーム・スクリプトの実行、およびデータベースへのアクセスを管理します。実行環境で、HTML が Web ブラウザに提示できるように、AWAS は JSP と ACCELL/Web サーブレットを実行する準備をして、Java アプリケーション・サーバと結合されます。

以下の図は、ユーザの Web ブラウザ、AWAS、Java アプリケーション・サーバ、およびデータベース・サーバが別々のホストにある実行環境を示しています。



AWAS と ACCELL/ マネジャーの主な違いは、それらが返す内容にあります。ACCELL/ マネジャーは、フォームの表示を管理し、フォームのスキプトのロジックを処理して入力を受け付けます。AWAS は、ユーザ入力を集めて、フォーム・スキプトのロジックに関連した部分を処理し、ACCELL/ Web サブレットへまとめてデータを返します。サブレットは、保持した JSP ページ・データと受信したデータを組み合わせて、Web ブラウザに完成したページを送ります。

ユーザが ACCELL/Web アプリケーションを起動するたびに、AWAS プロセスは、セッションを管理するために起動されます。ACCELL/Web デモン (ADMN) は、HTTP セッションの開始時に新しい AWAS プロセスを起動する役割を果たします。



ACCELL/SQL アプリケーションは、変換後、生成した JSP ページを、Web 開発者が、Web ページスタイルにマッチするようにカスタマイズすることができます。



追加ヘルプ

JSP technology についての詳細は、Sun の Web サイトを参照ください。
<http://java.sun.com/j2ee/ja/jsp/index.html>

アプリケーション・モデルの比較

このセクションは、ACCELL/SQL アプリケーション・モデルと、ACCELL/ Web アプリケーション・モデルの主要な違いを説明します。このセクションを読んだ後に、次の章で説明されるように、異なった動作仕様の ACCELL/SQL アプリケーション構成を再確認してください。



追加ヘルプ

ACCELL/SQL チュートリアルを理解されている場合は、このマニュアルを読む前に、先にコンバート、配置、そして、コンバートされたバージョンを調べてみることもできます。[「APP2JSP 変換ユーティリティの実行」](#)を参照してください。

各フォームは JSP ページになる

ACCELL/SQL アプリケーションの各スクリーン・フォームは、ACCELL/Web アプリケーションに変換されると JSP ページになります。以下の図は、変換の前後の ACCELL/SQL チュートリアル用の **fcompany** フォームを示します。

ACCELL/SQL

replace | stored | update | record 1 of 10

COMPANY INFORMATION

COMPANY: Athena Development Corp. SALES REP NO.: 7
ADDRESS: 5800 S.W. Washington St. NAME: G Moore
REP PHONE: (415) 555-1214

CITY: Portla
STATE: OR
MAIN PHONE: (503)

CONTACT: M Benn
TITLE: Purcha
PHONE: ext. 2

Select one of the following items

1. Prospect Tracking
2. Order Entry/Inquiry

ENTER SELECTION: |

ACCELL/Web

stored | update | record 1 of 10

Back Next Clear Search New Update Delete Zoom Cancel Log Off

Help ACCELL/Web TUTORIAL

COMPANY INFORMATION

COMPANY Athena Development Corp. SALES REP NO. 7
ADDRESS 5800 S.W. Washington St. NAME George Moore
REP PHONE (415) 555-1214

CITY Portland
STATE OR POSTAL CODE 97210
MAIN PHONE (503) 555-2400

CONTACT Mary Bennett
TITLE Purchasing Manager
PHONE ext. 2406

Enter the company name.

Choose Next Form

1. Prospect Tracking
2. Order Entry/Inquiry

Enter Selection: |

Enter Selection: |

OK Cancel

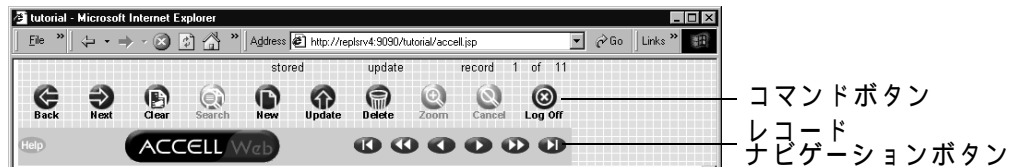
ACCELL/SQL 次フォームメニューは、ACCELL/Web では、別個の Web ブラウザ・ウィンドウで表示されることに注意します。ユーザは、選択した数字を入力するか次フォーム名を選択してから、チェックボタンをクリックします。

マスタ・アプリケーション・フォーム

ACCELL/SQL アプリケーションでのマスタ・アプリケーション・フォームは、ACCELL/Web では同じ方法で使用されません。ACCELL/SQL のマスタ・アプリケーション・フォームは、システム情報フィールドの表示に使用されます。ACCELL/Web では、システム情報フィールドは、JSP ページを表示する Web ブラウザ・ウィンドウの上部と下部で個々のヘッダ、及びフッタ・フレームで表示されます。けれども、マスタ・アプリケーション・フォームは、アプリケーションの開始及び、終了ポイントとしてもなお使用されます。

メニューの再配置

ACCELL/SQL メニューコマンドは、ACCELL/Web ではボタンで表示されます。大部分のボタンは、デフォルトで Web ブラウザ・ウィンドウの上部全体に一覧されます。レコード・ナビゲーションを制御するコマンドは、レコード・ナビゲーションボタンとなり、デフォルトでコマンドボタンの下に表示されます。



追加ヘルプ

コンテンツとメニューの外観の変更についての詳細は、「フレームセット・テンプレートの指定」を参照してください。

ラインとボックスストリムの削除

グラフィクス・キャラクタ（例えば、ラインおよびボックス）は、変換の間に削除されます。これらのキャラクタは、HTML で相当する表現を備えていません。これらのキャラクタが、情報として ACCELL/SQL アプリケーションで必要な場合は、ACCELL/SQL で変更するか、変換後にカスタマイズする必要があります。

例えば、変換された開発版チュートリアルマップを見ます。ラインとボックス文字を使用したフォームから .gif イメージを使用したフォームに変換されています。

前フォームの非表示

ACCELL/Web の実行時、**Next Form** コマンドは、前フォームと同じ Web ブラウザ・ウィンドウの領域に、次の JSP ページを送り出すので、もはや前フォームの JSP ページは、見えません。ACCELL/SQL アプリケーションが前フォームの一部のフィールドに依存する場合は、次フォームが表示される間表示させておくように、ACCELL/SQL で変更するか、あるいは変換後にカスタマイズする必要があります。



追加ヘルプ

前フォームのフィールドを追加してカレント・フォームに情報を与えるための前フォームの使用方法についての詳細は、「読取り専用フィールド」を参照してください。

フィールド・セクションの始動

デフォルトの ACCELL/Web では、ACCELL/SQL のようにユーザがフィールドへの入力や終了のとき、スクリプトのフィールド・レベル・コードセクションは実行されません。かわりに、Web ブラウザと AWAS 間の通信は、遅延処理バッファ内でフィールド・レベルが編集するのを保持できるように最適化されます。コマンドが、全てのコードセクションをカレントにする必要がある場合、順番に処理されます。

通常、この変更はアプリケーション・ロジックにトランスペアレントであるが、この変更が妥当でないいくつかのケースがあります。それらのケースでは、個々のフォームのために field-by-field 実行の ACCELL/SQL モデルを維持する変換オプションを指定することができますが、実行パフォーマンスは、そのフォームのために低下する可能性があります。

また、アプリケーション変換ファイルでの設定を使用するか、変換された JSP ファイルをカスタマイズすることによって、field-by-field 基準でその動作をカスタマイズすることができます。



追加ヘルプ

遅延処理の有効と無効についての詳細は、「遅延フィールド・イベント処理の有効と無効の決定」を参照してください。

セキュリティの考慮

ACCELL/SQL では、アプリケーションが、配置したホストで実行されるだけなので、アプリケーションへのアクセスを制御することが容易に行えました。ACCELL/Web では、配置されたアプリケーションの URL にアクセスすることができる全ての Web ブラウザを介して、ユーザがアプリケーションを起動します。ACCELL/Web は、2つのセキュリティ・オプションを提供します。

- アプリケーションを起動させる前に、常にオペレーティング・システムのユーザ ID とパスワードを検証するオプション。
- カレントユーザのユーザ ID で AWAS を実行するオプション。このオプションが指定されない場合、AWAS は ADMN を起動したユーザの ID で実行します。



追加ヘルプ

セキュリティを制御するプロパティについての詳細は、「プロパティ・ファイル」を参照してください。

繰り返し領域

デフォルトでは、ACCELL/SQL フォームの繰り返し領域は、変換後テキスト・フィールドとして表示されます。リストボックスとテキスト・フィールドの組合せのように、繰り返し領域を変換するオプションを選ぶことができます。これは、Web アプリケーションの代表的なものです。



追加ヘルプ

繰り返し領域についての詳細は、「繰り返し領域についての決定」を参照してください。

システム要件

ACCELL/Web のシステム要件は、ACCELL/SQL と同様です。詳細情報については、「ACCELL/SQL インストールガイド」を参照してください。

Web ブラウザのサポート

ACCELL/Web は、マイクロソフト Internet Explorer 5.0 と 5.5 の SP2 および Netscape 6.2 をサポートします。Web ブラウザのサポートリストの更新に関しては、ACCELL/SQL の ReadMe、または正誤表のマニュアルを参照してください。

<http://www.unify.com/support/resources/index.htm>

ACCELL/Web のインストールとライセンス

ACCELL/Web のインストール手順は、ACCELL/SQL と同様に ACCELL/Web を許可したライセンスキーを必要とします。詳細情報については、「ACCELL/SQL インストールガイド」を参照してください。

変換プロセスの概要

ACCELL/Web の基本的な知識を備えれば、変換プロセスを開始することができます。変換には、これらの一般的なステップがあります。

- ACCELL/SQL アプリケーションを準備します。（「ACCELL/SQL アプリケーションの準備」を参照してください。）
- 初期スタイルを決定します。（「スタイルの決定」を参照してください。）
- 初期デザインを決定します。（「デザインの決定」を参照してください。）
- アプリケーションを変換します。（「アプリケーションの変換」を参照してください。）
- 出力されたアプリケーションを確認して、機能をテストします。テストに基づいて、異なった変換オプション、デザインやスタイルを選択し、そして次に再変換します。
- 変換されたアプリケーションの JSP ファイルをカスタマイズします。（「変換したアプリケーションのカスタマイズ」を参照してください。）
- 変換されたアプリケーションのパッケージを行います。（「アプリケーション配置の準備」を参照してください。）
- 配置環境の構成をします。（「アプリケーションの配置」を参照してください。）
- 変換されたアプリケーションの配置を行います。（「アプリケーションの配置」を参照してください。）
- 変換されたアプリケーションを実行します。（「アプリケーションの実行」を参照してください。）
- 変換されたアプリケーションを管理します。（「変換されたアプリケーションの管理」を参照してください。）

ACCELL/SQL アプリケーションの準備

この章では、ACCELL/SQL アプリケーションの特性をチェックし、また推奨される動作をとることにより、確実に変換を成功させる手順を説明します。

アプリケーションの調査

このセクションは、変換前に、ACCELL/SQL アプリケーションで確認が必要なことについて説明します。構成される ACCELL/SQL のいくつかのタイプは変換されないので、変換後にカスタマイズ作業を必要とします。

アプリケーションの実行

変換を開始する前に、ACCELL/SQL アプリケーションがサポートしている UNIX プラットフォーム上でコンパイルして、動作を確認する必要があります。アプリケーションのプレゼンテーション・モード（キャラクタ、あるいは Motif）は、無視されます。

変換する前に、ACCELL/SQL あるいは ACCELL/IDS アプリケーションは ACCELL/SQL Release 8.0、またはそれ以上にアップグレードされなければなりません。

表示に関連した属性

一部の表示に関連した属性は、ACCELL/Web では異なって動作します。このセクションは、これらの属性と動作の違いを要約します。

BOLD、LOW_INTENSITY、BLINK と REVERSE_VIDEO

これらがフォーム・スクリプト、またはフォーム定義で設定されているかどうかに関係なく、これらの属性設定はラベルには有効ですが、ACCELL/Web のフィールドでは無視されます。

ROW、COL、WINDOW_HEIGHT と WINDOW_WIDTH

フォーム・スクリプトから設定した場合でも、ACCELL/Web では無視されます。生成された JSP ページをカスタマイズする事で、位置を制御することができます。

ENABLE ZOOM 文の REPEATING 句

ENABLE ZOOM 文の REPEATING 句は、無視されます。その代わりに、マルチ・オカレンス・フォームで表示するレコードの数は、OCCURRENCES フォーム属性によって決定されます。

マスタ・アプリケーション・フォームのシステムフィールド

マスタ・アプリケーション・フォームのシステムフィールドは、変換中に削除されます。システム・フィールドは、ACCELL/Web ではマスタ・アプリケーション・フォーム上に必要ありません。変換中に作成されるデフォルトのヘッダに、FYI_Message を除くシステムフィールドの全てを表示するための JavaScript が含まれます。FYI_Message フィールドを表示するための JavaScript は、変換中に作成されるデフォルトのフッタに含まれます。

システム・フィールドは、以下の通りです。

- fyi_message
- record_count
- record_mode
- record_number
- record_state
- zoom_indicator

プロンプトとメッセージの専門用語

ACCELL/SQL アプリケーション・モデルに特有な用語を含んでいる場合、FYI_message やヘルプメッセージ等の、アプリケーション・ユーザ・インタフェースで表示するいくつかの用語は、書換えが必要となります。例えば、以下のメッセージは ACCELL/Web では、意味がありません。フィールドに入力された時 (遅延フィールド処理が可能とした場合)、メッセージに関連するフィールド・レベル・コードのセクションは、実行されないからです。

「テキストを入力して下さい。フィールド長のテキストを入力するか、NEXT FIELD を押すと、格納されます。」

変換の前に、メッセージを書き換えることができます。FYI メッセージがフォーム定義でコーディングされている場合、変換後、同様にカスタマイズすることができます。

ACCELL/SQL ユーザ用と、ACCELL/Web ユーザ用で、アプリケーションの FYI メッセージのバージョンを 2 つ持っていたい場合、`jsp_mode$()` システム関数を使用します。この関数は、実行時にカレントモードを決定できるので、その時の関数の戻り値に基づいて適切なメッセージを選びます。この関数は、引数をとらず、ACCELL/Web アプリケーションで動作している場合 TRUE を、その他の場合 FALSE を返します。

例：

```
field FOO
  INIT FIELD
  IF ( jsp_mode$() ) THEN
    SET foo:FYI_MESSAGE TO 'This is ACCELL/Web'
  ELSE
    SET foo:FYI_MESSAGE TO 'This is ACCELL/SQL'
```

このメソッドは、フォーム・スクリプトで設定される FYI メッセージのみが有効です。

外部アプリケーションの起動

一部の ACCELL/SQL アプリケーションは、プログラムを起動するために `system$()` コマンドを使用します。ACCELL/Web では、コマンドはサーバで実行します。従ってそのプログラムは、ユーザの入力を求めることや、ブラウザ上にユーザのための表示を出力できません。アプリケーションでこのような機能を使用する場合には、ACCELL/Web で対応できるように変更する必要があります。

アプリケーションを、ACCELL/Web 環境で動作させる場合には、`jsp_mode$()` システム関数を使用して、ACCELL/Web 用のリクエストを処理するための新しいコードを記述することができます。

例えば、アプリケーションが `push_shell` という名で、ユーザがオペレーティング・システム・シェルをプッシュすることを選択するメニュー項目を使用するフォームを含んでいる場合には、以下の CHOOSE NEXT FORM セクションを追加します。

```
CHOOSE NEXT FORM
WHEN jsp_mode$() = FALSE
CONTINUE TX RECORD_CONSISTENCY USING push_shell
```

このコードによって、アプリケーションが JSP モードで実行している時は、メニューオプションは提供されません。

作業ディレクトリ

いくつかの ACCELL/SQL アプリケーションは、相対パスを使用して実行時のオペレーティング・システム・ファイルへの位置を決定します。その結果、指定したディレクトリ内で実行したようにコード化されます。

アプリケーションがこの必要な要件を満たしている場合には、ACCELL/Web アプリケーションの機能しているディレクトリは、このディレクトリと同じものに指定してください。ACCELL/Web アプリケーションの作業ディレクトリを指定するには、Accell.WorkingDirectory プロパティを使用します。

yesno\$() ダイアログ

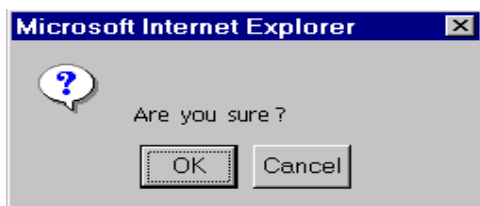
yesno\$() プロンプトは、ACCELL/Web では、[OK/ キャンセル] ダイアログとして表示されます。ダイアログの [OK/ キャンセル] ボタンは、Web ブラウザによって提供され、それらのラベルは変更することができません。その代わりに、ボタンラベルのメッセージを、適切な指示メッセージのテキストに変更して対応できます。

例えば、ACCELL/SQL 指示メッセージが以下の場合：

Are you sure?

[OK] [Cancel]

ACCELL/Web では、以下のようになります。



より適切な指示メッセージ：

Press the OK button to confirm or the Cancel button to cancel.

[OK] [CANCEL]

指示メッセージを変更する代わりに、ダイアログで [OK] ボタンは Yes レスポンスを、[Cancel] ボタン、中断ポップアップは No レスポンスを返して通知することもできます。

また、`yesno$()` にデフォルトの応答を指定する引数は、ACCELL/Web では無視されます。そのため、デフォルトの応答はありません。

printf () フォーマット

`printf()` 関数フォーマットは、データ表示に対してサポートされません。アプリケーションがフォーマット表現式でこの機能を使用している場合には、ACCELL/Web で対応できるように変更する必要があります。

例えば、`%d`、`%.2f`、等のフォーマットは無視されるので、`'###、##'` の表示フォーマットに変更しなければなりません。

カスタムマネジャー

アプリケーションで C-hooks が必要な場合、カスタム ACCELL/ マネジャーを作成した同じ方法で、カスタム ACCELL/Web アプリケーション・サーバ (AWAS) を作成する必要があります。カスタム AWAS を作成するステップは同様で、その際に `amgr.ld` ではなく `awas.ld` を使用します。

実行時に、カスタム AWAS 実行形式は、指定のディレクトリに置かれます。ADMN に、`-mdir` 引数とディレクトリを指定します。デフォルトでは、`$RELDIR/managers` が使用されます。

ACCELL/Web アプリケーションでカスタム AWAS を使用する場合は、`acell.properties` ファイルに `Accell.Manager` プロパティを設定する必要があります。



追加ヘルプ

`acell.properties` ファイルの詳細は、「プロパティ・ファイル」を参照してください。

アプリケーション・ファイルの位置

変換ユーティリティが変換を行っているときは、通常 **.al** のサフィックスを持つアプリケーション・リンクファイルに依存します。このファイルは、アプリケーション・フォーム、およびフォームを含むアーカイブに関する情報を含んでいます。

ACCELL/SQL アプリケーションのフォームのみが変換され、残りのファイルは変換されません。けれども、これら他のファイルは、アプリケーションでまだ使用されます。

デザインの決定

この章では、ACCELL/SQL アプリケーションが Web アプリケーションとして、どのように動作させるかを決定する事項について説明します。

繰り返し領域についての決定

ACCELL/SQL アプリケーションは、複数レコードを表示するために繰り返し領域を使用します。アプリケーションで繰り返し領域を使用している場合、その変換方法を選択することができます。

デフォルトでは、繰り返し領域は変換後、一連の個々のテキスト・フィールドになります。これは、ACCELL/SQL の look & feel と、最も一致します。

ACCELL/SQL

replace|stored update record 1 of 49 records found

COMPANY INFORMATION

COMPANY: J. A. Donne & Associates SALES REP NO.: 4
ADDRESS: 501 Broadway NAME: A Karont
Suite 1050 REP PHONE: (612) 955-2301

INVENTORY INQUIRY & MAINTENANCE MAP:

PART NUMBER	DESCRIPTION	UNIT PRICE	UNIT COST	WEIGHT (LBS)	QUANT. ON HAND
5004	Chair, Foldin	8.40	3.00	4.50	240
5002	Chair, Steno	79.95	30.00	32.50	40
5003	Chair, Stack	32.95	12.50	8.75	2
5005	Chair, Exec	210.95	75.50	42.00	10
5006	Table, Corner	112.50	45.00	21.00	0
5007	Table, Confer	425.95	199.95	220.75	8
5008	Desk, Compute	185.00	35.50	74.00	0
5009	Desk, Exec	285.95	120.00	145.25	0

Press HELP to locate where you are, or RETURN to continue.
F1-Prv Form F2-Nxt Form F3-Prv Rec F4-Nxt Rec F5-Fld Help

ACCELL/Web

Inventory - Microsoft Internet Explorer stored update record 1 of 49

Back Next Clear Search New Update Delete Zoom Cancel Log Off

ACCELL Web

INVENTORY INQUIRY & MAINTENANCE MAP:

Part Number	Description	UNIT Price	UNIT Cost	Weight Lbs.	Quantity On Hand	Quantity On Order
5004	Chair, Folding	8.40	3.00	4.50	240	0
5002	Chair, Steno	79.95	30.00	32.50	40	0
5003	Chair, Stack	32.95	12.50	8.75	2	200
5005	Chair, Exec	210.95	75.50	42.00	10	0
5006	Table, Corner	112.50	45.00	21.00	0	20
5007	Table, Confer	425.95	199.95	220.75	8	0
5008	Desk, Computer	185.00	35.50	74.00	0	60
5009	Desk, Exec	285.95	120.00	145.25	0	2

Press HELP to locate where you are, or RETURN to continue.

リストボックス、ラベルとテキスト・フィールドの組合せに繰り返し領域を変換することができます。これは、Web アプリケーションの look&feel と、最も一致します。

ACCELL/SQL

ITEM#	PART#	DESCRIPTION	QTY	PRICE	EXTENSION	QTY SHIP	STATUS
1	5002	Chair, Steno	2	79.95	159.90	0	B
2	5008	Desk, Computer	2	185.00	370.00	0	B
3	5011	File Cab, 2Drwr	1	225.95	225.95	0	B
4	5006	Table, Corner	3	112.50	337.50	3	F
5	5007	Table, Confer.	2	425.95	851.90	2	F
6	5003	Chair, Stack	10	32.95	329.50	10	F
7	5004	Chair, Folding	10	8.40	84.00	10	F

ACCELL/Web

リストボックスで
表示される行

テキストフィールド
で表示されるカ
レント行

リストボックスは、繰り返し行を含みます。リストボックスより下のテキスト・フィールドは、リストボックスに現在選択された行からのデータを含みます。ラベルとテキスト・フィールドは、ACCELL/SQL フォームと同じレイアウトです。リストボックスで表示される行は、読取専用です。

ユーザが行を変更して他の行をクリックした場合、Web ブラウザのプロンプトは、更新を適用するかをたずねます。

繰り返し領域のためのリストボックスを使用するには、3つの注意事項があります。

- 全選択セットは、**検索**コマンドの後に Web ブラウザに送信されます。これは、アプリケーション・ユーザが頻繁に大量のレコードを検索する場合、パフォーマンスを向上することになります。



ヒント

リストの繰り返しモードによって変換されたフォームのために、Web ブラウザに返される行の最大数を設定する `Accell.FindLimit` プロパティを使用します。詳細は、「`Accell.FindLimit`」を参照してください。

- ユーザがあるレコードから別のレコードに移るとき、そのレコードに関連したコードセクションは実行されません。レコードを追加、更新あるいは削除する要求が実行される時、AWAS はレコードのクリックに対するコードセクションを実行して、それから要求した操作を実行します。要求によって起動するコード・セクションの1つが REJECT OPERATION、または RESTART ON FIELD の場合、その操作は実行されません。例えば、レコードの更新が要求される場合には、変更されたあらゆるフィールドに対するフィールド・レベル・コードセクションが起動されます。さらに、フィールド・イベントが正常完了された後、BEFORE FIELD セクションも起動されます。もし、これらのコードセクションが、エラーを生成したり、REJECT OPERATION または RESTART ON FIELD を呼び出す場合、そのレコードは更新されません。1回に変更されるのは、1つの行だけであるということに注意して下さい。変更された行から新しい行へ変わるには、変更された行を更新するか、変更を破棄するかを選択するダイアログを生成します。更新するほうを選択した場合には、更新操作が明示的に選択されたように動作します。
- ズーム・コマンドは、リストボックス上では無効となります。

繰り返し領域を、リストボックス/ラベル/テキスト・フィールドの組み合わせで変換するように指定するには、アプリケーション変換ファイルで、繰り返しモードに `list` スタイルを指定します。



ヒント

生成した JSP コードをカスタマイズして、リストボックスを全てのフィールドでなく、繰り返しグループ・フィールドのサブセットを含むリストボックスのようにすることができます。また、リストボックスの列に対して、順序、表示幅と位置も変更することができます。詳細は、「デザイン・エレメントのカスタマイズ」を参照してください。

遅延フィールド・イベント処理の有効と無効の決定

ACCELL/SQL で実行される 1 回に 1 フィールドの処理に代わり、デフォルトの ACCELL/Web では、フィールド・レベル・コードセクションをまとめて実行するために、遅延フィールド処理を使用します。フォームが開始される時、各フィールドの init field セクションが実行されますが、他のフィールド・イベントは、まとめて処理するために先送りされます。

遅延フィールド・イベント処理は、デフォルトで有効となります。各フィールド・レベル・コードセクションを実行するには AWAS での通信を必要とするからです。これが各コードセクションに対して使用される場合、パフォーマンスが低下します。

遅延フィールド・イベント処理が有効の場合、ACCELL/SQL レコード・レベルか、ユーザ・コマンドが要求されるまで遅延フィールド・レベル・コードセクションは実行されません。その時点で、遅延した各フィールド・レベル・コードセクションは、順番に実行されます。

フィールド・レベル・コードセクションが、遅延してまとめて実行されるとき、アプリケーションのフィールド・レベル・コードセクションに多くの制御コードがあると、異なった動作をする場合があります。あるケースでは、オリジナルのアプリケーションで条件付きの制御ロジックを再処理することで、同じ動作を提供しています。そしてフィールド・レベル・コードセクションが遅延するとき、この動作は維持されます。

例えば、アプリケーションが BEFORE FIELD セクションのフィールドでズームを可能にするものである場合、このコードを INIT フィールド・セクションに移動することにより、フィールド・イベント処理が遅延されるかどうかに関係なく、同じ動作とすることができます。

遅延フィールド・イベント処理によって、アプリケーションの動作にどのような変化がおこるか、アプリケーションを分析及びテストしてみる必要があります。

デフォルトを上書きして、全てのフォームで遅延フィールド・イベント処理を無効にするためには、アプリケーション変換ファイルで **immediate** の `defer_mode` を指定します。遅延リスト、および即時実行リストの設定を使用することで、field-by-field 基準で遅延フィールド・イベント処理を有効、または無効にすることができます。

変換後、生成された JSP ページを編集することで field-by-field 基準で遅延フィールド・イベント処理を有効、または無効にすることができます。

遅延フィールド・イベント処理を無効にして、そして全てのフィールド・イベントが直ちに処理されるように指定する場合に、次のどちらかの AWAS の通信が存在することになります。

- ユーザが、AFTER FIELD、ON FIELD、あるいは WHEN FIELD CHANGES コードセクションをもつフィールドから、フォーカスを移動する。
- ユーザが、BEFORE FIELD、ON FIELD、あるいは WHEN FIELD CHANGES コードセクションをもつフィールド上で、フォーカスする。



追加ヘルプ

変換についての詳細は、「[APP2JSP 変換ユーティリティの実行](#)」を参照してください。フィールドに対して、遅延フィールドイベント処理を変更して、JSP コードをカスタマイズする方法についての詳細は、「[デザイン・エレメントのカスタマイズ](#)」を参照してください。

スタイルの決定

この章は、Web アプリケーションの JSP ページ上で使用される、一般的なエレメントのスタイルを指定する方法について説明します。

プリファレンス・ファイル

ACCELL/Web は、変換された JSP ページのスタイルや look & feel を制御するためにプリファレンス・ファイルを使用します。

スタイル設定は、変換された JSP ファイルにコード化することができるのに対して、プリファレンス・ファイルを使用することは、アプリケーションの保守性を向上します。変換したアプリケーションのスタイル・エレメントを変更したい場合、プリファレンス・ファイルの変更と、アプリケーションの look & feel の再作成だけでできます。以前に生成した JSP ファイルは、再生成する必要はなく、そのため作成してあるカスタマイズは保存されます。



追加ヘルプ

look & feel スタイルの再生成についての詳細は、「APP2JSP 変換ユーティリティの実行」の `-f` オプションの説明を参照してください。

プリファレンス・ファイルの作成

デフォルトの ACCELL/Web プリファレンス・ファイルは、`q2jsp.cf` の名前で \$UNIFY に存在します。カスタマイズしたプリファレンス・ファイルを作成するには、このファイルをコピーして、要求にあわせてスタイルのプリファレンス設定を変更します。

カスタマイズしたプリファレンス・ファイルを作成した場合、アプリケーションを変換する際に、そのファイルを指定する必要があります。そうでなければ、デフォルトのプリファレンス・ファイルが使用されます。



追加ヘルプ

変換中のカスタマイズされたプリファレンス・ファイルの指定についての詳細は、「アプリケーション変換ファイルの設定」、または「APP2JSP 変換ユーティリティの実行」の `-p` オプションを参照してください。

プリファレンス・ファイルの表記法

プリファレンス・ファイルは、標準の構成ファイル表記を使用します。
例：

```
repeating_area_background="#DDCCEE"  
template="$UNIFY/horizontal.dat"  
background="#FFFFFF"
```

コメント・テキストには、『#』 キャラクタを使用します。行の『#』 キャラクタの後は、全て無視されます。もし、『#』 キャラクタが値の一部である場合、その値はダブルクォーテーションで囲まれなければなりません。

```
background="#ffffff"
```

フォーム・スタイル：標準とズーム

ほとんどの ACCELL/SQL アプリケーションは、標準フォームに加えてズームフォームを使用します。一般的に、ズームフォームはアプリケーションの標準フォームと比べて、異なった look & feel を持ちます。

これら 2 つのタイプのスタイルをサポートするために、プリファレンス・ファイルは 2 つのカテゴリを持ちます。アプリケーションの標準フォームの全てに適用する設定が最初に一覧され、全てのズームフォームに適用する設定が続きます。

```
## Settings for Standard forms:  
...  
template="$UNIFY/horizontal.dat"  
# The background color for the Standard forms.  
background="#FFFFFF"  
  
# The URL of the image name for the background of the Standard forms  
wallpaper=  
  
# The width for the border around the repeating area.  
repeating_area_border="2"  
  
# The background color for the repeating area.  
repeating_area_background="#DDCCEE"  
...  
## Settings for Zoom forms:  
# The template for the frameset for zoom forms.  
zoom_template="$UNIFY/horizontal_zoom.dat"
```

```
# The background color for the Zoom forms.
zoom_background="#FFFFFF"

# The URL of the image name for the background of the Zoom forms
zoom_wallpaper=
...
```

ズームフォームの全てのプリファレンスは、"zoom_" か "ZOOM_" プレフィックスを持ちます。

フォームがズームスタイル (form_style=zoom) を使用するように変換される場合、一部のスタイル設定には従うことができませんが、実行時にそのフォームは、標準フォームとして使用されます。例えば、アプリケーションの全ての標準フォームは、同じフレームセット (レイアウト) を使用します。そのとき、フォームがズームスタイルのフォームとして「タグつき」であるが、標準フォームとして使用される場合 (例えば、アプリケーションがそのフォームを表示するために、ズームオペレーションよりも次のフォーム・オペレーションを実行する場合)、そのフォームのフレームセットはズームフォームではなく、標準フォームのように表示されます。



追加ヘルプ

フォームが、標準フォームかズームフォームのどちらで識別されるかは、アプリケーション変換ファイルで、その **form_style** を設定をすることによって決定します。この詳細については、「アプリケーション変換ファイルの設定」で、**form_style** のセクションを参照してください。

フレームセット・テンプレートの指定

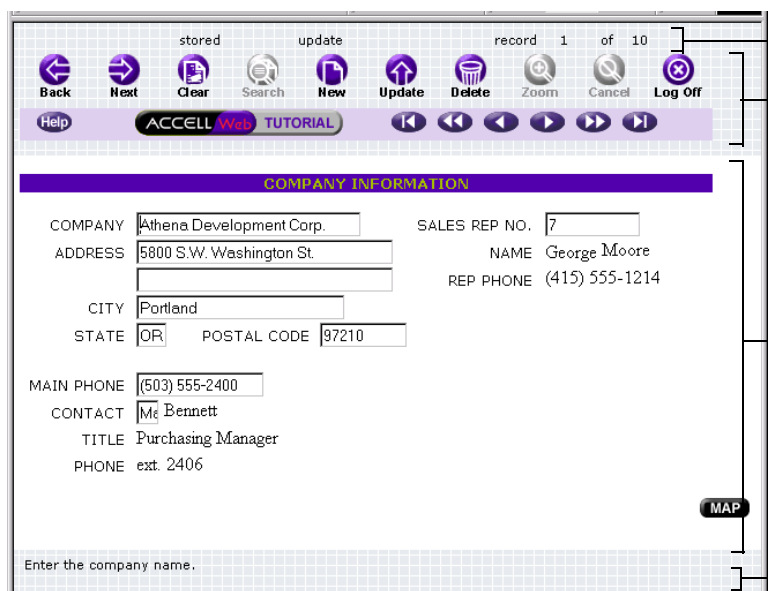
ACCELL/Web アプリケーションの look & feel の重要な面は、JSP ページによって使用されるフレームセットにあります。フレームセットは、ブラウザ・ウィンドウを別々の枠（各々独自のコンテンツで）に分割することによって、1つのブラウザ・ウィンドウの範囲内で、複数のページを提供します。

ACCELL/Web アプリケーションで、全ての標準フォームと、全てのズームフォームに対して使用される、それぞれのフレームセットタイプの内から1つを選択します。また、ユニファイが提供するフレームセットを選択するか、あるいは作成したフレームセットを選ぶことができます。

ユニファイが提供するフレームセット

標準フォームに対して、ユニファイが提供するフレームセットは4つ、そしてズームフォームに対して4つあります。全てのフレームセットは、4つの枠のフレームセットです。

これは、標準フォームに対してのデフォルトのフレームセットの例です。

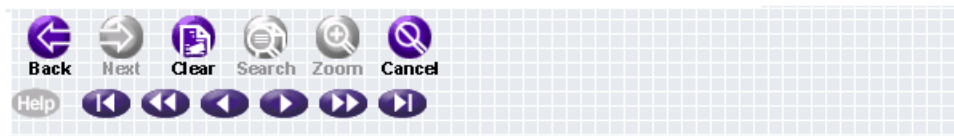


The screenshot shows a web browser window displaying a form titled "COMPANY INFORMATION". The form contains several input fields for company details, including company name, address, city, state, postal code, sales rep number, name, and phone numbers. A navigation bar at the top includes buttons for Back, Next, Clear, Search, New, Update, Delete, Zoom, Cancel, and Log Off. A "MAP" button is located at the bottom right of the form area. The interface is divided into several distinct sections, which are labeled with lines pointing to them:

- システム情報フィールド枠 (System Information Field Frame)
- メニューとコマンドのバー枠 (Menu and Command Bar Frame)
- メインコンテンツ枠 (Main Content Frame)
- フッタ枠 (Footer Frame)

システム情報フィールドの枠は、ページの上部の中に水平にあります。ユーザコマンドとナビゲーション・ボタンの枠は、水平メニューと呼ばれるページ上部に水平か、垂直メニューと呼ばれるページサイドに垂直のどちらかにあります。FYI メッセージの枠は、フッタと呼ばれるページ下部にあります。メインのコンテンツ枠は、常に中央にあります。

アプリケーションのズームフォームは、一般的に標準フォームよりも小さいので、選択するフォームに、独自のデフォルトのフレームセットを持っています。これは、ズームフォームに対してのメニュー、およびコマンドバー枠の例です。



プリファレンス・ファイルの **template** プリファレンスを使ってフレームセットを選択します。**template** プリファレンスは、生成された JSP ページに対してフレームセット構成を作成するために使用する、テンプレート・ファイル名を指定します。デフォルトでは、30 ページに示される `horizontal.dat` テンプレートが使用されます。以下の表は、利用可能なテンプレートの一覧です。

テンプレート名	説明
<code>horizontal.dat</code>	ウインドウ上部のイメージボタンの水平メニューレイアウト定義。これは、デフォルトのレイアウトです。
<code>horizontal_zoom.dat</code>	ズームフォームでは、このレイアウトは、より幅が狭く、いくつかのコマンドはメニューにはありません。
<code>horizontal_text.dat</code>	コマンドとレコード・ナビゲーションボタンのための
<code>horizontal_text_zoom.dat</code>	ウインドウ上部のテキストリンクの水平メニューレイアウト定義。ズームフォームでは、このレイアウトは、より幅が狭く、いくつかのコマンドはメニューにはありません。
<code>vertical.dat</code>	ウインドウの左側のテキストの垂直メニューレイアウト定義。ズームフォームでは、このレイアウトは、より幅が狭く、いくつかのコマンドはメニューにはありません。
<code>vertical_zoom.dat</code>	

テンプレート名	説明
vertical_text.dat	ウィンドウの左側のテキストリンクの垂直メニューレイアウト定義。テキストリンクは、コマンドボタンとレコード・ナビゲーションに使用します。レコード・ナビゲーションボタンは、テキストリンクですが、ページの上部に一緒に置かれます。ズームフォームでは、このレイアウトは、より短く、いくつかのコマンドはメニューにはありません。
vertical_text_zoom.dat	
vertical_text_zoom.at	

テンプレート・テキスト版を使用すると、表示を速くすることができます (イメージをダウンロードしないので)、そして低解像度のモニターで見ると、重要な省スクリーンスペースとすることができます。

フレームセットのカスタマイズ

ユニファイが提供するデフォルトのフレームセットの代わりに、独自のフレームセットの使用を選択することができます。そのフレームセットは、異なるコマンドおよびナビゲーション・ボタン制御を表示するための、グラフィックまたはテキストを含むことができます。

必要とするフレームセットのタイプに最も近いフレームセット構成のテンプレートからコピーして、独自のテンプレートを作成できます。それからフレームセット属性を変更、あるいは追加してカスタマイズします。カスタマイズしたテンプレートを使用するには、プリファレンス・ファイルの `template` プリファレンスにそのファイル名を含めます。

```
template=/mydir/mytemplate.dat
```

フレームセットメニューページ

各フレームセットテンプレートは、それぞれのフレームセット構成に特有のテキスト、およびデザイン・エレメントをもつ HTML ファイルを参照します。

変換後、これらの HTML ファイルは編集することができます。フレームセットで使われるメニュー HTML ファイルは、コンバージョンの時点で APP2JSP (または Q2JSP) 出力ディレクトリへコピーされます。ACCELL/Web の中の変換可能なファイルの一部、メニュー HTML ファイルは、変換ユーティリティ

(APP2JSP あるいは Q2JSP) で **-m** オプションを使用されなければ、変換過程の間に上書きはされません。

HTML メニューファイルを編集することによって、グローバルにこれらのテキスト、およびデザイン・エレメントを変更することができます。以下の表は、各フレームセット・テンプレートによって使用される、メニュー HTML ファイルの一覧です。垂直テンプレートが使用される場合、コマンドメニュー、およびレコード・ナビゲーション・メニューという 2 つのメニュー HTML ファイルが存在します。

テンプレート・ファイル:	フレームセット・リファレンス:
horizontal.dat	horizontalmenu.html
horizontal_text.dat	horizontaltextmenu.html
vertical.dat	verticaltopmenu.html and verticalmenu.html
vertical_text.dat	verticaltoptextmenu.html and verticaltextmenu.html
horizontal_zoom.dat	horizontalzoommenu.html
horizontal_text_zoom.dat	horizontaltextzoommenu.html
vertical_zoom.dat	verticaltopzoommenu.html and verticalzoommenu.html
vertical_text_zoom.dat	verticaltoptextzoommenu.html and verticaltextzoommenu.html

背景色と壁紙の選択

デフォルトの背景色は、白で「#ffffff」が指定されています。壁紙は、デフォルトでは指定されていません。

background あるいは **wallpaper** プリファレンスを使用することによって、それぞれ独自の背景色あるいは壁紙を指定することができます。ズームフォームでは、プリファレンス名は **zoom_background**、および **zoom_wallpaper** です。壁紙のために指定する値は、GIF または JPEG ファイルでなければなりません。

ラベルスタイルの選択

ノーマル、ボールドのラベルスタイルは、プリファレンス・ファイルで設定することが出来ます。

また、次のように ACCELL/SQL ラベル属性の組合せに対応する、ラベルスタイル・プリファレンスを指定することができます。

プリファレンス名	ACCELL/SQL 属性
BLINK ZOOM_BLINK	BLINK
LOW_INTENSITY ZOOM_LOW_INTENSITY	LOW_INTENSITY
REVERSE_VIDEO ZOOM_REVERSE_VIDEO	REVERSE_VIDEO
UNDERLINE ZOOM_UNDERLINE	UNDERLINE
BLINK_LOW_INTENSITY ZOOM_BLINK_LOW_INTENSITY	BLINK and LOW_INTENSITY
BLINK_REVERSE_VIDEO ZOOM_BLINK_REVERSE_VIDEO	BLINK and REVERSE_VIDEO
LOW_INTENSITY_REVERSE_VIDEO ZOOM_LOW_INTENSITY_REVERSE_VIDEO	LOW_INTENSITY and REVERSE_VIDEO
BLINK_LOW_INTENSITY_REVERSE_VIDEO ZOOM_BLINK_LOW_INTENSITY_REVERSE_VIDEO	BLINK, LOW_INTENSITY, and REVERSE_VIDEO
UNDERLINE_REVERSE_VIDEO ZOOM_UNDERLINE_REVERSE_VIDEO	UNDERLINE and REVERSE_VIDEO
BLINK_REVERSE_VIDEO_UNDERLINE ZOOM_BLINK_REVERSE_VIDEO_UNDERLINE	BLINK, REVERSE_VIDEO, and UNDERLINE
LOW_INTENSITY_UNDERLINE_REVERSE_VIDEO ZOOM_LOW_INTENSITY_UNDERLINE_REVERSE_VIDEO	LOW INTENSITY, UNDERLINE, REVERSE_VIDEO
BLINK_LOW_INTENSITY_UNDERLINE_REVERSE_VIDEO ZOOM_BLINK_LOW_INTENSITY_UNDERLINE_REVERSE_VIDEO	BLINK, LOW INTENSITY, UNDERLINE, REVERSE_VIDEO



追加ヘルプ

これらのプリファレンスのデフォルト値についての詳細は、\$UNIFY に含まれる `q2jsp.cf` ファイルを参照してください。

繰返し領域のバックグラウンドと境界の選択

繰返し領域のボーダーのデフォルト値は、2ピクセルで、背景色は、淡い紫（「#DDCCEE」）です。

repeating_area_border、および **repeating_area_background** プリファレンスを使用することによって、異なった値を指定することができます。ズームフォームでは、**zoom_repeating_area_border** および **zoom_repeating_area_background** プリファレンスを使用します。

アプリケーションの変換

この章では、ACCELL/SQL アプリケーションを変換するために、APP2JSP 変換ユーティリティをどのように使用するかについて説明します。

アプリケーション変換ファイルの設定

ACCELL/SQL アプリケーションの変換は、アプリケーション変換ファイルによって制御されます。そのファイルは、.ini ファイルフォーマットで、テキスト・エディタで編集します。

ファイルには、アプリケーションでの全てのフォームが適用する Application Defaults セクションがあります。以下の Application Defaults セクションは、特有のフォームに適用する設定を持つフォーム固有セクションです。例えば、チュートリアルに対するアプリケーション変換ファイルは、以下のとおりです。

```
[Application Defaults]

; pref_file = path to look and feel preference file
pref_file = $UNIFY/q2jsp.cf

; repeating_mode: fields or list
repeating_mode = fields

; defer_mode: defer or immediate
defer_mode = defer

; keymap = list of key=command entries
keymap =

;Form-specific sections
;Each form section may contain any of the following settings:
; form_style = standard or zoom
; repeating_mode = list or fields
; defer_mode = defer or immediate
; defer_list = fielda, fieldb, fieldc...
; immediate_list = fielda, fieldb, fieldc...
; keymap = key=command, key=FINN_command-AUD_command...

;Master Application Form: tutorial, Archive: tutorial.fa
[tutorial]

;Standard Form: fthanks, Archive: tutorial.fa
[fthanks]

;Standard Form: fcompany, Archive: tutorial.fa
[fcompany]

;Standard Form: fsalesrep, Archive: tutorial.fa
[fsalesrep]
...
```

アプリケーション変換ファイルを作成する最も容易な方法は、APP2JSPユーティリティを実行し、`-e` オプションと ACCELL/SQL アプリケーションの `application.al` ファイル名を指定することです。これは、デフォルトのアプリケーション変換ファイルを作成しますが、変換は実行しません。デフォルトコンバージョン・ファイルは、`application.al` 特有のスペックで、アプリケーションの全てのフォームの form-specific セクションを含みます。

一旦、デフォルトの変換ファイルを持てば、アプリケーションで必要のように、それをカスタマイズすることができます。

下記セクションは、アプリケーション変換ファイルで設定することができるオプションの説明です。また、これらはデフォルトで提供されています。

pref_file

スタイル、あるいは変換アプリケーションの look & feel を制御するプリファレンス・ファイルを指定します。使用したいプリファレンス・ファイルの完全なパス名をこのオプションに設定します。プリファレンス・ファイルの作成についての詳細は、「スタイルの決定」を参照してください。

`-p` オプションを指定して、デフォルトのアプリケーション変換ファイルを作成した場合、そのオプションに指定するファイルです。そうでなければ、`$UNIFY/q2jsp.cf` が指定されます。

このオプションは、[Application Defaults] セクションのみで設定します。

form_style

適切なフォーム・タイプとデザイン・エレメント（プリファレンス・ファイルから）を指定します。

standard フォームは標準フォームで、標準フォーム・スタイルが使用されます。

zoom フォームはズームフォームで、ズームフォーム・スタイルが使用されます。

オプションが指定されない場合、**standard** が使用されます。これらの2つのフォームタイプに対するスタイルについての詳細は、「スタイルの決定」を参照してください。

このオプションは、[form_name] セクションのみで設定できます。

repeating_mode

繰り返し領域が、どのように提供されるかを指定します。オプションは、以下のとおりです。

fields 繰り返し領域は、テキスト・フィールドに変換されます。

list 繰り返し領域はリストボックスおよびテキスト・フィールドの組み合わせに変換します。

どちらの提示がアプリケーションにとって、最も良い選択なのかについての詳細は、「繰り返し領域についての決定」を参照してください。

デフォルトのアプリケーション変換ファイルが作成される時、**-r list** オプションを指定した場合、**list** は [Application Defaults] セクションに記載されたデフォルト値に、そうでない場合は **fields** がここに指定されません。

このオプションは、[Application Defaults] あるいは [form_name] セクションで設定できます。[form_name] レベルでの設定は、[Application Defaults] レベルの設定を上書きします。

defer_mode

フィールドイベント処理が、このフォームに対してどのように扱われるかを指定します。オプションは、以下のとおりです。

defer フィールド・レベル・コードセクションは、レコード・レベル ACCELL/SQL、またはユーザコマンドがリクエストされるまで実行されません。その時、遅延された各フィールド・レベル・コードセクションは、順番に実行されます。

immediate フィールド・レベル・コードセクションは、その時点ですぐに実行されます。

アプリケーションに対する、適切な遅延モード選択についての詳細は、「遅延フィールド・イベント処理の有効と無効の決定」を参照してください。

デフォルト変換ファイルが作成される時に、**-n** オプションを指定した場合、**immediate** が、[Application Defaults] セクションに記載されたデフォルトに、そうでない場合は、**defer** がそれらに指定されます。

さらに field-by-field 基準でフィールド・イベント処理オプションを指定することができ、そのフィールドだけで **defer_mode** セットアップを上書きすることになります。下記の **defer_list**、および **immediate_list** オプションを参照してください。

defer_mode オプションは、[Application Defaults] あるいは [form_name] セクションで設定可能です。[form_name] レベルでの設定は、[Application Defaults] レベルでの設定を上書きします。

defer_list

immediate の **defer_mode** は、フォームで有効な場合、遅延フィールドイベント処理を使用するために、フィールド名を指定します。フィールドがここに指定されていない場合は、フォーム上のフィールドは、**defer** の **defer_mode** を使用しません。

カンマで、フィールド名を分けます。

このオプションは、[form_name] セクションのみで設定可能です。**defer_mode** が、フォームで **defer** に設定されていると、この設定は無効です。

immediate_list.

defer の **defer_mode** は、フォームで有効な場合、immediate フィールド・イベント処理を使用するために、フィールド名を指定します。フィールドがここに指定されていない場合は、フォーム上のフィールドは、**immediate** の **defer_mode** を使用しません。

カンマで、フィールド名を分けます。

このオプションは、[form_name] セクションのみで設定可能です。**defer_mode** が、フォーム **immediate** に設定されていると、この設定は無効です。

keymap

keymap エントリを指定します。エントリは、フォームのステートメント `keyw = command` (例えば、`F2=NEXT_FORM`) です。複数のエントリは、

カンマで分けられます。ファンクションキーの割り当ては、ユーザ定義コマンド、あるいは ACCELL/SQL コマンドで作成することができます。

keymap 設定は、生成された .jsp コードで keyMap エントリを作成するために使用されます。keymap 設定は、キー定義エントリのリストです。

このオプションは、[Application Defaults] あるいは [form_name] セクションで設定可能です。[Application Defaults] セクションにある場合、全ての変換フォームに適用されます。[form_name] セクションにある場合、そのフォームのみに適用されます。同じキーが両方のレベルにある場合、[form_name] レベルの設定が、[Application Defaults] レベルを上書きします。

例えば、[Application Defaults] セクションを指定する場合：

```
keymap = F2=NEXT_FORM, F3=FOUND
```

フォーム・レベル・セクションを指定する場合：

```
keymap = F3=mycmd
```

その後、keymap は結果として生じます：

```
F2=NEXT_FORM, F3=mycmd
```

APP2JSP 変換ユーティリティの実行

構文

```
APP2JSP [-d directory] [-e] [-f] [{ -c | -m}] [-n] [-p preference_file]  
        [-r {fields | list} [-v] [-i] application.al
```

引数

-d ディレクトリ

生成されたファイルが置かれる出力ディレクトリを指定します。省略した場合 *./accelljsp* が使用されます。

- e 変換ユーティリティは、アプリケーションリンク (*application.al*) ファイルのプリプロセスを行い、アプリケーション変換ファイル (*application.ini*) を作成するが、変換を実行しないことを指示します。作成されたファイルは、*application.al* ファイルと同じディレクトリに置かれます。ディレクトリが、*application.ini* ファイルをまだ含んでいないことを確認します。(このファイルは、上書きできません。) さらに、ユーティリティを実行しているユーザは、*application.al* ファイルを含むディレクトリに書き込み権を持っていないければなりません。

-e オプションが指定された場合、*application.al* 引数がさらに指定されなければなりません。-d、-c および -m オプションは指定することができません。

- f 前に変換したアプリケーションの出力ディレクトリの look & feel スタイル・プリファレンスが上書きされますが、各フォームの .jsp ファイルは、保存されることを指示します。これは、それぞれのフォーム .jsp ファイルに作成したカスタマイズを失うことなく、アプリケーション・スタイル (例えば、color や background) を変更するのに有効です。スタイル・プリファレンスについての詳細は、「スタイルの決定」を参照してください。

- c アプリケーション・メンテナンス用 (例えば、新しいバージョンの ACCELL/Web を受けたとき) のオプションです。変更不可能な ACCELL/Web リリースファイルが、出力ディレクトリにコピーされ、それによっ

てそこにある同じ名前のいくつかのファイルが上書きされることを指定しています。さらに変更可能なリリースファイルをコピーするために、**-m** オプションを使用してください。変更可能なファイルについての詳細は、「出力ディレクトリを理解する」を参照してください。

-c あるいは **-m** オプションが指定される場合、出力ディレクトリは既に存在していなければなりません。もし出力ディレクトリがない場合、エラーメッセージが出力されて変換は失敗します。

- m** アプリケーション・メンテナンス用（例えば、ACCELL/Web の新しいバージョンを受け取る時）のオプションです。変更不可能なリリースファイルと同様に、変更可能な ACCELL/Web リリースファイルは出力ディレクトリにコピーされ、同じ名前のいくつかのファイルが上書きされることを指定しています。変更可能なリリースファイルに対して行われた変換は消失します。**-m** が指定される場合には、**-c** オプションは含まれています。

-c あるいは **-m** オプションが指定される場合、出力ディレクトリは既に存在していなければなりません。もし出力ディレクトリがない場合、エラーメッセージが印刷されて更新は失敗します。

- n** 遅延フィールド・イベント処理オプションは、既存の変換されたフォーム上の全てのフィールドで、**immediate** に設定することを示します。

これは、アプリケーション変換ファイルに設定を追加して、特定のフォームおよびフィールドで、上書きすることができます。

-p *preference_file*

変換フォームの look & feel を制御する、スタイル・プリファレンスの名前を指定します。

-p オプションが指定される場合、既存のアプリケーション変換ファイルの、全てのスタイル・プリファレンス・ファイル指定を上書きします。

-r fields あるいは **-r list**

変換されているフォーム上の繰り返し領域スタイルを示します。オプションは、以下のとおりです。

fields 繰り返し領域は、テキスト・フィールドに変換されません。

list 繰り返し領域は、リストボックスおよびテキスト・フィールドの組み合わせに変換されます。

-r オプションが指定される場合、既存のアプリケーション変換ファイルの **repeating_mode** の、[Application Defaults] 設定を上書きします。

アプリケーション変換ファイルを作成している場合、指定した値が変換ファイルのデフォルト **repeating_mode** 設定として使用されます。**-r** オプションが省略されている場合、**fields** がアプリケーション変換ファイル作成時に、デフォルトとして使用されます。

-r オプションが指定されている場合、有効なオプションが続かなければなりません。

指定するオプションは、アプリケーション変換ファイルに **repeating_mode** のフォームレベル設定を追加することによって、特定のフォームは上書きされます。

-v ユーティリティが、詳細な情報が表示されるモードで実行するべきであることを示します。詳細な情報が表示されるモードでは、ステータスメッセージは変換を通じて出力されます。警告およびエラーメッセージは、**-v** オプションの使用によって影響は受けません。

-i *application.al* 引数は、リテラルを必要とし **.al** 以外の拡張子は使用できません。**-i** オプションを指定する場合、アプリケーション・ファイル名は、同じく指定されなければなりません。

application.al

変換されるアプリケーションの **.al** ファイル名を指定します。指定したファイル名に、完全なパスが含まれていない場合、カレントディレクトリか、\$ACLPATH 設定中のディレクトリに存在する必要があります。

説明

APP2JSP ユーティリティは、アプリケーションリンク (**.al**) ファイルに基づく ACCELL/SQL アプリケーションを変換します。**.al** ファイルによって参照される各アプリケーション・フォームが見つけ出され、マスタ・アプリケーション・フォームから始まり、JSP ページに変換されます。**.al** ファイルに参照されていないアーカイブ・ファイルのフォームは、変換されません。

フォームファイル(.fq)は、APP2JSP 変換ユーティリティによって使用されません。

APP2JSP ユーティリティは、UNIX 上のコマンドラインから実行します。そしてこの APP2JSP が実行される環境は、アプリケーションが動く環境と一致していなければなりません。例えば、アプリケーションが、ACLPATH 構成変数の設定が必要な場合、この変数は設定されなければなりません。

APP2JSP ユーティリティは、JSP ページを作成するために使用するアプリケーション・ファイルを変更しません。

APP2JSP ユーティリティは、変換を制御するためにアプリケーション変換ファイルを使用します。そのファイルは、アプリケーション全体、およびフォームに特有の変換設定を含んでいます。アプリケーション変換ファイルの内容については、「[アプリケーション変換ファイルの設定](#)」を参照してください。

アプリケーション変換ファイルを使用しない場合（または、*application.al* ディレクトリに存在しない場合）、デフォルトのアプリケーション変換ファイルが作成され、次に変換を制御するために使用されます。この場合、APP2JSP ユーティリティはアプリケーション変換ファイルを作成することが可能なように、APP2JSP を実行するユーザは、*application.al* ファイルを含むディレクトリに書き込み許可のパーミッションが必要です。

既存のアプリケーション変換ファイルを使用したい場合は、変換を開始する前に *application.al* ファイルと同じ場所に *application.ini* 名のファイルを置いておく必要があります。

application.al 引数が指定されていない場合、すでに変換済みのアプリケーションの更新であることを指定するための *-c*、あるいは *-m* 引数のどちらかが指定されなければなりません。この場合、出力ディレクトリは、既に存在していなければなりません。

アプリケーションではなく、単独のフォームを変換したい場合は、付録 C で説明されているように、Q2JSP ユーティリティを使用します。



警告

出力ディレクトリ (-d オプション) が、現在変換しているアプリケーションにフォームと同じ名前の JSP ファイルを含んでいる場合、それらは上書きされます。これらの JSP ファイルをカスタマイズしている場合、これらの変更は消失します。(-f オプションを指定する場合、look & feel プロパティ・ファイルは、上書きされません。)

ACCELL/Web における LANGDIR の使用は、ACCELL/SQL の LANGDIR と同じです。LANGDIR は、オプションです。APP2JSP は、\$UNIFY および \$UNIFY/accelljsp で、変換のためのヘルプファイルを探します。LANGDIR が設定されている場合、パスは \$UNIFY/\$LANGDIR および \$UNIFY/\$LANGDIR/accelljsp になります。

例

デフォルトのアプリケーション変換ファイルを作成するには、-e オプションを使用します。

```
APP2JSP -e myapp.al
```

myapp.ini ファイルが作成されます。このファイルをカスタマイズした後、それを使用して変換を再実行することができます。

```
APP2JSP myapp.al
```

チュートリアル・アプリケーションを変換するには、ACCELL/Web に含まれる **a_w_tut** スクリプトを使用します。このスクリプトは、チュートリアル・アプリケーションのコピーを作成し、そのアプリケーションを Web アプリケーションに変換し、その後 WAR ファイルを作成します。このスクリプト、および **makeaweb** スクリプトは、パスに **jar** ユーティリティを要求します。**jar** ユーティリティは、Java Developers Kit (JDK) に含まれています。



追加ヘルプ

-c、-m オプションおよび変更可能なファイルについての詳細は、「ACCELL/Web のアップグレード」を参照してください。

Q2JSP ユーティリティは、アプリケーションではなく、個々のフォームを変換します。Q2JSP ユーティリティについての詳細は、「付録 C: Q2JSP でのフォームの変換」を参照してください。

WAR ファイルについての詳細は、以下のサイトを参照ください。
<http://java.sun.com/j2ee/tutorial/doc/WebComponents.html>.

出力ディレクトリを理解する

APP2JSP 変換ユーティリティは、変換された JSP ページを含むディレクトリを生成します。そのディレクトリには、完全な Web アプリケーションを提供するために使用される他のコンポーネントを含むことができます。

ディレクトリは、以下のものを含みます。

.jsp (変換されたファイル)

変換されたフォームを表す JSP ファイル名は、フォーム名に基づいて生成され、例えば、チュートリアル・アプリケーションの **fcompany** フォームは、変換後 **fcompany.jsp** ファイルになります。マスタ・アプリケーション・フォームは、変換後フォーム名に MAF サフィックスが付加されます。例えば、チュートリアルの **tutorial** マスタ・アプリケーション・フォームは、変換後に **tutorialMAF.jsp** ファイルになります。

ユーティリティは、<FRAME> 及び <FRAMESET> エレメントを含む **fcompany_frames.jsp** という追加のファイルを生成します。**form.jsp** をカスタマイズできますが、**form_frames.jsp** を変更すべきではありません。

ACCELL/Web リリース・ファイル

ACCELL/Web リリース・ファイルは、さらにいくつかの JSP と HTML ファイルを含みますが、それらの名称はフォーム名に基づいては生成されません。Java スクリプト・ファイル、**accell.properties** ファイル、**WEB-INF** ディレクトリ、**images** ディレクトリ、**laf.properties** ファイル、**standard.css** ファイルおよび **standard.css** ファイルです。

laf.properties は、プリファレンス・ファイルによって定義されたとおりに、カレントの look & feel スタイルをキャプチャします。アプリケーションの look & feel スタイルを変更したい場合は、プリファレンス・ファイルを変更し、次に APP2JSP ユーティリティの **-f** オプションを使用して、**laf.properties** ファイルを更新します。**laf.properties** ファイルを、直接編集すべきではありません。

ACCELL/Web リリース・ファイルの一部は、アプリケーションのニーズにあわせるためのカスタマイズが可能です。変更可能なファイルは、以下のものです。

header.jsp
header_zoom.jsp
footer.jsp
horizontalmenu.html
horizontalzoommenu.html
horizontaltextmenu.html
horizontaltextzoommenu.html
verticaltopmenu.html
verticaltopzoommenu.html
verticalmenu.html
verticalzoommenu.html
verticaloptextmenu.html
verticaloptextzoommenu.html
verticaltextmenu.html
verticaltextzoommenu.html
topcorner.html
ExternalMessages.js

残りのファイルは、カスタマイズが可能ではありませんので、それらが開発、および実行環境の両方で保護された状態にしておく必要があります。

ACCELL/Web リリース・ファイルは、最初にアプリケーション（あるいは、Q2JSP を使用したアプリケーションからのフォーム）を変換するとき、ディレクトリ・ツリーにコピーされます。同じディレクトリに対しての次の変換を行っても、**-c** か **-m** オプションが指定されない限り、これらのファイルをコピーしません。

APP2JSP ユーティリティを実行する際に、APP2JSP は出力ディレクトリが、**accell.properties** と呼ばれるファイルを含むかどうかをチェックします。出力ディレクトリがそのファイルを含んでいない場合、APP2JSP は、デフォルト **accell.properties** ファイルを生成します。

accell.properties ファイルは、アプリケーション・プロパティ設定を含み、AWAS の実行、またどのように環境 / コマンドラインの情報を得るかを制御するために使用されます。これらの設定は、アプリケーション特有にカスタマイズすることができます。



追加ヘルプ

accel.properties ファイルについての詳細は、「プロパティ・ファイル」を参照してください。アプリケーションの管理に関する詳細は、「ACCELL/Web のアップグレード」を参照してください。

変換したアプリケーションのテスト

ACCELL/SQL アプリケーションの最初の変換後、Web ブラウザで変換された JSP ページを見るために、いくつかテストレベルを実行したくなるかもしれませんが、**makeaweb** スクリプトで WAR ファイルに出力ディレクトリをパッケージ化することによって、テストのためのアプリケーションをすばやく配置することができます。

WAR ファイルは、Web アプリケーションを圧縮、アーカイブして配布するためのフォーマットです。WAR ファイルは、基本的には JAR ファイルで、ファイルの中にデータを含めるための 2、3 の特別なルールがあります。これは、WAR ファイルを作成する最も一般的な方法が、Java Development Kit (JDK) に付属する jar コーティリティを使用しているためです。

例：

```
cd accelljsp
jar cf ../myapp.war *
```

テストのあと、スタイルや設計の問題を調整するために、必要に応じてアプリケーション変換ファイルを更新することができます。

アプリケーションのスタイルと設計を完成させた後に、次の章で記述される手順で、コンバートされたアプリケーションのカスタマイズを開始することができます。カスタマイズは、フォームの変換された JSP ファイルを使用で行うので、変換したアプリケーションのテストが終わるまで、カスタマイズを開始すべきではありません。テスト中に、変更され再変換される必要のあるフォームを発見した場合は、そのために、新しい JSP ファイルを作成します。



追加ヘルプ

アプリケーションのテストのために、配布に関する章の情報を参照してください。アプリケーションのデバッグについての詳細は、「付録 A：デバッグ」を参照してください。

WAR ファイルについての詳細は、Unify eWave Engine ユーザーズガイド、および以下のサイトを参照してください。

<http://java.sun.com/j2ee/tutorial/doc/WebComponents.html>.

フォームの変換についての詳細は、
「付録 C: Q2JSP でのフォームの変換」を参照してください。

変換したアプリケーションの カスタマイズ

この章では、デザインをカスタマイズする方法と、ACCELL/Web アプリケーションの機能をについて説明します。

Web アプリケーション・ファイルの出力

変換中、ACCELL/Web は、Web アプリケーション・ファイルを出力します。以下の3つのグループに出力ファイルを分類することができます。

- 生成されたフォーム固有ファイル
- 変更可能な Web アプリケーション・ファイル
- 変更不可能な Web アプリケーション・ファイル

生成されたフォーム固有ファイル

これらのファイルは、ACCELL/SQL アプリケーション・フォーム、および ACCELL/Web HTML/JSP テンプレートから生成されます。アプリケーションの全てのフォーム（マスタ・フォームを含む）に対して、APP2JSP は2つの jsp ファイルを出力します。例えば、チュートリアルの ACCELL マスタ・フォーム **tutorial** には、**tutorialMAF.jsp** および **tutorialMAF_frames.jsp** の2つのファイルが相当します。

これらのファイルを変更することにより、file-by-file 基準で柔軟に変更を行うことができます。カスタマイズの補助として、生成されたファイルに [CUSTOMIZE CODE HERE] タグがあります。けれども、**_frames.jsp** ファイルを変更するべきではありません。

変更可能な Web アプリケーション・ファイル

これらのファイルは、Web アプリケーションのデザイン・エレメントの多くを制御します。イメージボタン、カラー、およびログ、そしてローカライズされたメッセージのようなウェブ・エレメントをカスタマイズすることができます。以下のファイルです。

header.jsp
header_zoom.jsp
footer.jsp
horizontalmenu.html
horizontalzoommenu.html
horizontaltextmenu.html
horizontaltextzoommenu.html

verticaltopmenu.html
verticaltopzoommenu.html
verticalmenu.html
verticalzoommenu.html
verticaltoptextmenu.htm
verticaltoptextzoommenu.html
verticaltextmenu.html
verticaltextzoommenu.html
topcorner.html
ExternalMessages.js

変更不可能な Web アプリケーション・ファイル

残りのファイルは、変更不可能な Web アプリケーション・ファイルです。それらは、ACCELL フォーム・ナビゲーション・ロジックを制御します。また、「読取り専用」のファイルにしておいたほうがよいものです。



追加ヘルプ

参照

出力ディレクトリ 「出力ディレクトリを理解する」

デザイン・エレメントのカスタマイズ

HTML および JSP コードを変更することによって、Web アプリケーションでデザイン・エレメントをカスタマイズすることができます。



警告

カスタマイズは、フォームの変換された JSP ファイルを使用して行われるので、変換されたアプリケーションのテストを終えるまでカスタマイズを開始すべきではありません。テスト中、変更または、再変換する必要のあるフォームが見つかった場合、そのために新しい JSP ファイルが作成され、あらゆる変更が上書きされます。



ヒント

変換する前に、コマンドライン、またはプリファレンス・ファイルに APP2JSP 変換オプションを追加することで、デザイン・エレメントを定義することができます。これによる変更は、file-by-file 基準でなく、全体的なものになります。変換カスタマイズ・オプションについての詳細は、追加ヘルプを参照してください。

マクロメディア Dreamweaver UltraDeveloper の使用について

Web アプリケーション開発ツール（例えば、マクロメディア Dreamweaver UltraDeveloper）を使うことで、簡単にアプリケーションのデザイン・エレメントをカスタマイズすることができます。Dreamweaver UltraDev は、ACCELL/Web ディストリビューションの中に含まれています。Dreamweaver UltraDev は、すぐに実行できるための使用説明メディアを含んでいます。

Dreamweaver UltraDeveloper でサイトを定義する時、サイト定義カテゴリを介して行います。サイト定義ダイアログで、アプリケーション・サーバ・カテ

ゴリの下でサーバモデルを設定する時、ACCELL/Web アプリケーションをカスタマイズするために JSP サーバモデルを選択する必要があります。



ラベル・スタイル

Accell/SQL のラベル・スタイルは、BOLD や BLINK のようなビジュアル属性があります。ACCELL/Web は、組み合わせ可能なビジュアル属性のそれぞれを、アプリケーション全体のスタイルシート（標準フォームの場合は `standard.css`、あるいはズームフォームの場合は `zoom.css`）で、定義される HTML スタイルクラス名に変換します。

変換されたアプリケーションで使用されるスタイルを変換するためには、プリファレンス・ファイルで設定を更新して、その後 `-f` オプションを使用してアプリケーションを再変換します。

変換後、必要に応じて `style-by-style` 基準でこれらのスタイルをカスタマイズすることができます。カスタマイズするには、`.jsp` ファイルのコメントをはずし、個々のスタイル・エレメントを上書きします。テキスト `*** In the following STYLE block, uncomment any item you wish to...` から始まるファイルのセクションの場所を見つけます。フォームに使用されるスタイルシートは、リンク・ステートメントで指定されていることに注意します。

```
<link rel="stylesheet" href="standard.css" type="text/css">
```

スタイル・エレメントはそのあとに記載されます。

```
** CUSTOMIZE CODE HERE
*/
-->
<STYLE TYPE="text/css">
<!--
...
/* #repeatingAreaStyle { background-color: "#DDCCEE"; border-width: 2 } */
/* .HEADER { font-family: Verdana, Arial, Helvetica, sans-serif; font
size: 10pt; color: #FFFFFF; background-color: #AA99BB; font-weight: bold} */
/* .NORMAL { font-family: Verdana, Helvetica, Arial, sans-serif; font
size: 10pt } */
/* .BLINK { font-family: Verdana, Arial, Helvetica, sans-serif; font-size: 10pt;
font-style: italic; font-weight: bold; text-decoration: blink} */
...

```

各 HTML フォーム・エレメントは、各ページ上の埋め込み式スタイルを参照します。

以下は、JSP ファイル内でカスタマイズすることができる、スタイルクラス名の完全なリストです。

NORMAL
BLINK
ZOOM_BLINK
LOW_INTENSITY
ZOOM_LOW_INTENSITY
REVERSE_VIDEO
ZOOM_REVERSE_VIDEO
UNDERLINE
ZOOM_UNDERLINE
BLINK_LOW_INTENSITY
ZOOM_BLINK_LOW_INTENSITY
BLINK_REVERSE_VIDEO
ZOOM_BLINK_REVERSE_VIDEO
LOW_INTENSITY_REVERSE_VIDEO
ZOOM_LOW_INTENSITY_REVERSE_VIDEO
BLINK_LOW_INTENSITY_REVERSE_VIDEO
ZOOM_BLINK_LOW_INTENSITY_REVERSE_VIDEO
UNDERLINE_REVERSE_VIDEO
ZOOM_UNDERLINE_REVERSE_VIDEO
BLINK_REVERSE_VIDEO_UNDERLINE

ZOOM_BLINK_REVERSE_VIDEO_UNDERLINE
LOW_INTENSITY_UNDERLINE_REVERSE_VIDEO
ZOOM_LOW_INTENSITY_UNDERLINE_REVERSE_VIDEO
BLINK_LOW_INTENSITY_UNDERLINE_REVERSE_VIDEO
ZOOM_BLINK_LOW_INTENSITY_UNDERLINE_REVERSE_
VIDEO

下記は、ラベル・スタイルの共通のプロパティリストです。HTML スタイルについては、Web リソースの追加ヘルプを参照してください。

プロパティ

説明

font-family	font-family プロパティに、任意のフォント（またはコンマで区切られたフォントリスト）を指定することができます。フォントを表示するためには、ユーザの表示するホスト上に存在している必要があるので共通フォントを指定するのが最も確実です。
-------------	--

指定したフォントが見つからない場合、一般的なスタイルの選択に合ったフォントに置き換えられるように、一般的なフォント・ファミリをリストの最後のオプションに含むことができます。

可能な値は、以下の 5 つの値です。

- serif (例:Times)
- sans-serif (例:Helvetica または Arial)
- monospaced (例:Courier または Courier New)
- cursive (例:Zapf-Chancery)
- fantasy (例:Western、Impact または表示優先のいくつかのフォント)

空白文字（スペース）を含むフォント名は、クォーテーションマーク（シングル、またはダブル）で囲まれなければなりません。一般的なフォントファミリ名は、クォーテーションマークで決して囲まれてはなりません。

プロパティ

説明

font-size	<p>テキスト・エレメントのサイズを指定します。フォントサイズを指定するために、4つの方法があります。</p> <p>絶対サイズ: 値: xx-small x-small small medium large x-large xx-large 絶対サイズは、ブラウザによってサイズ保存されるテーブルリファレンスの記述用語です。</p> <p>相対サイズ: 値: larger smaller 親オブジェクトに相対的なサイズを指定します。</p> <p>全長サイズ: 値: number + em ex px pt pc mm cm in</p> <p>割合サイズ: 値: n% 継承されたフォント・サイズの割合を指定します。</p>
font-weight	<p>タイプのウエイトかボールドレスを指定します。記述用語か、9つの数値の1つを指定することができます。(下記参照)</p> <p>値: normal bold bolder lighter 100 200 300 400 500 600 700 800 900</p>
color	<p>エレメントのフォアグラウンド・カラーを記述します。カラー値の指定についての情報は、追加ヘルプを参照してください。</p> <p>値: color name RGB color value</p>
background-color	<p>エレメントの背景色を設定します。</p> <p>値: カラー名または RGB 値 transparent</p>



追加ヘルプ

参照

プリファレンス・ファイルで 「プリファレンス・ファイル」
のスタイル定義の追加

HTML および <http://www.w3.org/>
Web テクノロジー

イメージボタン

ACCELL/Web は、ロールオーバー・イメージのハンドリング・ロジックとイメージボタンを提供します。イメージボタンは、コマンドがフォーム上で使用可能が使用不可にされているかを示します。

変更可能なファイルの中にある 2 つの JavaScript 配列を変更することによって、イメージボタンとそれらの機能で使用されるイメージをカスタマイズすることができます。メニューファイル名は、**q2jsp.cf** ファイルで設定するテンプレートによって決まります。

各メニューは、2 つの配列を含みます。

- `normalImages`
- `disabledImages`

disabledImages は、任意の名前にすることができます。**normalImages** は、`[Off.gif]` で終わらなければなりません。ロールオーバー・イメージ名は、ノーマル・イメージ名をもっていて、`[Off.gif]` を `[On.gif]` と入れ替えることで構成されています。

ノーマル・イメージの URL に `window.normalImages[<command name>]` で設定する必要があります。イメージ名は、`[Off.gif]` で終わらなければなりません。

対応する使用不可イメージに対しては、ステイプル・イメージの URL に `window.disabledImages[<command name>]` で設定する必要があります。



ヒント

イメージを変更した後、更新されたイメージを見る場合には、必ず Web ブラウザのキャッシュをクリアします。

フレームセット

フレーム及びフレームセットには、フレームの概観を管理する属性セットがあります。

変換する前に、フレームセット構成テンプレート・ファイルを編集することによって、フレームセットをカスタマイズすることができるということを覚えておいてください。これによるフレームセットのカスタマイズは、グローバル基準なものになります。変換する前に、フレームセットをカスタマイズすることについての詳細は、下記の追加ヘルプを参照してください。

以下の表は、.dat ファイルでカスタマイズすることができるフレームセット属性の説明です。フレーム属性タグは、<frame> タグ内で定義されます。

属性	説明
bordercolor	フレームの枠の色を設定します。(枠が有効な場合) RGB 値か、カラーネームを使用します。
frameborder	カレントフレームと周囲のフレームの間に、セパレータを描くかどうかを決めます。1(または、yes)の値は、枠を有効にします。0(または、no)の値は、枠を無効にします。
marginheight	ピクセル単位でフレームの上と下の余白を制御します。
marginwidth	ピクセル単位でフレームの左右の余白を制御します。
frameborder	フレームに枠を表示可能、または表示不可にします。1(または、yes)の値は、枠を有効にします。0(または、no)の値は、枠を無効にします。
scrolling	スクロールバーが、フレームに含まれるかどうかを決定します。オプションは、Yes、No、および Auto (必要な場合のみ、提供されるスクロールバー) です。



追加ヘルプ

参照

変換前のフレームセットの
カスタマイズ

「フレームセット・テンプレートの指定」

読取り専用フィールド

ACCELL/SQL フォームが変換される場合、前フォームのカスケーディング・ビューは消失します。同じ機能を残すために、読取り専用フィールドを、変換されたフォームに追加することができます。

読取り専用フィールドを追加するには、次のインスタンス・メソッドを使用する必要があります。

```
<%acellManager.getValue(request,name)%>
```

以下のパラメータを指定しなければなりません。

パラメータ	定義
リクエスト	HTML リクエスト・オブジェクトの名前。
名前	4GL 変数名。フォーム名: 指定される場合と、指定されない場合があります。 var, \$var, form:var, form: \$var。

例えば、以下の CO_ADDRESS_1 と CO_ADDRESS_2 フィールドは、前フォームから存在します。

```
<table>
Company's address :
<TR>
<TD>      <%=acellManager.getValue(request,"CO_ADDRESS_1")%>
</TD>
</TR>
<TR>
<TD>      <%=acellManager.getValue(request,"CO_ADDRESS_2")%>
</TD>
</TR>
</table>
```

ACCELL/Web は、Web ブラウザがカレントページを完全にリフレッシュする回数を最小限にすることによって、Web ブラウザとサーバ間のトラフィックの量を最適化します。

その結果、ほとんどのコマンドは、フォームのために生成された JSP ページを読み出すことなく処理されます。一般に、カレント・フォームの JSP ページは、ユーザが次フォーム、または前フォームを選択する時、もしくはコマンドと関連する 4GL がフィールドの STOP_FOR_INPUT 属性を変更した時に読み出されるだけです。

生成された JSP コード (AccellManager.getValue によって 4GL 変数を読み出すこと) をカスタマイズする場合、もっと多く実行される JSP コードを生成したいと思うかもしれません。

ACCELL/Web は、refreshCommands を呼び出す生成されたコードを、JavaScript 配列に追加します。この配列は、リフレッシュを開始するコマンドの名前を含みます。この配列の値は、システムコマンド (last_command_name\$() によって返される) の名前と、リフレッシュを開始するためのユーザ定義コマンドの名前です。最初は、何もありません。リフレッシュを開始する追加コマンドを発生させるために、この配列にコマンド名を追加することができます。

また、フォームの MAF システムフィールドやヘッダ、または以下のインスタンス・メソッドを使用しているフッタから、読取り専用フィールドを配置することができます。

```
<%=accellManager.systemField(  name,  
                               size  
                               width  
                               attrs)
```

パラメータ	定義
Name	システム・フィールドの名前。
Size	キャラクタでのフィールドの幅。
Width	ピクセルでのフィールドの幅。
Attrs	フィールドにオプションの HTML 属性を与えている HTML 断片。

この方法で作成されるフィールドは、あらゆるコマンドの後、更新されま
す。これらの更新を引き起こすために、最適化を無効にする必要はありませ
ん。

例：

```
<TD>
<%acellManager.systemField(
    "form_mode", "7", "56",
    "CLASS=\"MAINHEADER\"")%>
</TD>
```

繰返し領域リストボックス

ACCELL/Web は、clientCells と呼ばれる ClientCellDescriptors の JavaScript 配
列を生成します。配列は、-r リスト・オプションで変換されるフォームの繰
返し領域リストボックスのレイアウトを決定します。

配列で、各 ClientCellDescriptor オブジェクトのパラメータを修正すること
により、以下をカスタマイズすることができます。

- フィールド順序
- 表示幅
- セル位置合せ

ClientCellDescriptor コンストラクタのパラメータは、以下の通りです。

<i>パラメータ</i>	<i>定義</i>
Name	Screen field name
Alignment	文字列：「LEFT」、 「RIGHT」、または「CENTER」
Width	characters での列幅

下記は、繰返しリストボックスのための配列の例です。

```
var clientCells
  = new Array (
    new ClientCellDescriptor(
      "ITM_LINE_NUMBER.",
      "RIGHT",
```

```

        6),
        new ClientCellDescriptor(
            "ITM_STOCK_NUMBER.",
            "LEFT",
            6),
        new ClientCellDescriptor(
            "sdesc.",
            "LEFT",
            16)
    );

```

この配列で、フィールド名の後に‘.’（ピリオド）を使用する必要があります。



追加ヘルプ

参照

リストボックス
変換オプション

「スタイルの決定」

遅延フィールド・イベント処理

ACCELL/Web は、フィールド・レベル・コードセクションが、直ちに実行されなければならない全てのフィールドの名前からなる JavaScript 配列を生成します。

通常は、アプリケーション変換ファイルでオプションを使用することにより、遅延フィールド・イベント処理を制御します。けれども、配列にフィールド名を追加することで変換した後のフォームで、どのフィールドが遅延フィールド・イベント処理オプションが無効にされるかを指定することができます。

配列の中のフィールドは、遅延フィールド・イベント処理が無効となっています。

```

var immediateFields
    new Array(
        "CO_NAME",
        "CO_SALES_REP",
        "CO_ADDRESS_1"
    );

```



追加ヘルプ

参照

遅延フィールド・イベント 処理	「遅延フィールド・イベント処理の有効と無効の 決定」
--------------------	-------------------------------

ファンクションキーの割当

生成された JSP コードで KeyMap 配列にエントリを追加することで、キー割り当てをカスタマイズすることができます。通常は、アプリケーション変換ファイルにキーマップ・エントリを追加することにより、これらの割り当てを制御します。しかし、変換後にアプリケーションのキー割り当てが必要になる場合があるかもしれません。

エントリは、形式「key=command」の文字列です。

下記の例では、user2 がユーザ定義コマンドであり、そしてそれは F8 が押される時に実行されます

```
var          keyMap = new Array(  
    "F8=user2"  
    );
```

ファンクションキー割り当ては、ユーザ定義コマンドに限られていません。ACCELL コマンドにもファンクションキーを割り当てることができます。



追加ヘルプ

アプリケーション変換ファイルについての詳細は、「[アプリケーション変換ファイルの設定](#)」を参照してください。

カスタム・コマンド

カスタム・コマンドのためのボタンは、< button>..[button](#)> タグを使用して追加されます。タグの name 属性は、Web ブラウザで読み込まれるときに、ACCELL/Web がボタンを検索して適切な onClick ハンドラの設定をするために、コマンドの名前を含まなければなりません。

以下の例は、コマンドを定義するためのサンプル・コードです。

```
<input type="button" value="Wknd Gross" name="user2">
```

この name が 4GL コマンドの名前です。

カスタム・クライアント・サイドの確認

フィールド用に生成された HTML に、onChange イベントハンドラを追加することによって、クライアント・サイド検証を追加することができます。

ハンドラはフィールドが有効でないと判断すると警告を表示し、次に以下のメソッドを呼び出します。

```
window.top.client.Manager.restartInput();
```

フィールドのカスタマイズ

各入力エレメントの生成された JSP コードは、AGEN でフィールドを定義した方法によって、以下のどちらかの方法で書式設定されます。

- AGEN で、stop_for_input を false に設定したフィールドは、accellManager.input() の呼出しに変換されます。
- AGEN で、stop_for_input を true に設定したフィールドは、HTML 入力エレメントに変換されます。

accellManager.input

各 ACCELL/SQL フィールドの生成された JSP コードは、メソッドの呼び出しから構成されています。

```
accellManager.input
```

フィールドの概観(見た目)を変更するために、`acellMamager.input` メソッドのパラメータ(以下の表参照)を変更することができます。

パラメータ	定義
Name	フィールドの名前。以下のうちの1つでなければなりません。 <ul style="list-style-type: none">フィールドが繰り返し領域である場合、以下のようになります。 <code><acellname>.row</code> この <code>acellname</code> が ACCELL/SQL フィールドの名前であり、<code>row</code> は、ウィンドウ領域の見える一部に関連している 0 ベースの行番号です。フィールドが画面フィールド配列の一部である場合、以下のようになります。 <code><acellname>._row_col</code> この <code>row</code> および <code>col</code> が、AGEN で定義される画面フィールド配列の中の行と列数です。その他の場合は、以下のようになります。 <code><acellname>.</code>
Type	入力要素の HTML タイプ(例えば <code>text</code>)
Size	キャラクタの幅
Width	ピクセルの幅
Attrs	追加 HTML 属性(すなわち <code>onChange</code> イベント・ハンドラのための JavaScript、またはスタイル)を含んでいる文字列。
useStatic	ACCELL/SQL 言語の規則が、フィールドにフォーカスを得ることを許さない場合(すなわち、 <code>stop for input</code> が <code>false</code> の場合)、フィールドは静的テキストとして表示されるのか、あるいはその時の入力要素を無効にするかを示します。

HTML 入力要素

ACCELL/SQL で、`stop_for_input` を `true` に設定したフィールドは、HTML 入力要素に変換されます。入力要素は、フォームが検索モードであっても、`stop_for_input` と `focusable` 属性の実行の値によって、`true` および `false` を無効属性に設定します。

Web ブラウザで表示される時、HTML としてこれらのフィールドを生成することは、ページの look & feel の動作に影響しません。マクロメディア Dreamweaver UltraDeveloper のような、Web ページ・エディタに表示されたとき、生成されたコードとページの外観に影響するだけです。

生成された入力エレメント表現形式です。

```
<input name=xxx, size=yyy,  
  <%=acellManager.getAttributes(xxx, "text")%>>
```

この `acellManager.getAttributes` は、フィールドの HTML 属性を返すメソッドです。

`acellManager.getAttributes()` メソッドは、2 つの引数があります。

属性	定義
Name	フィールド名。詳細については、「フィールドのカスタマイズ」 <code>input()</code> メソッドの定義を参照してください。
Type	フィールドのタイプ。HTML タイプ値（例えば <code>text</code> 、 <code>hidden</code> と <code>button</code> ）を使用します。フィールドの <code>ECHOED</code> 属性が実行時に <code>true</code> であり、 <code>getAttributes</code> に渡されるタイプが <code>xxx</code> である場合、 返される HTML 断片は <code>type="xxx</code> を含みます。ECHOED が <code>false</code> の場合、断片は <code>type="hidden"</code> を含みます。

アプリケーション配置の準備

この章では、ACCELL/Web 実行時のプロパティ、また実行環境の設定やパッケージ方法について説明します。

プロパティ・ファイル

大部分の Java アプリケーションと同様に、ACCELL/Web アプリケーションは、実行動作を制御するためにプロパティを使用します。例えば、**Accell.Host** プロパティは、ACCELL/Web サブレットが、ADMN（最終的には、AWAS バックエンド・アプリケーション）の位置を決定するためにアクセスしなければならないホスト名を指定します。

プロパティは、1つあるいは複数のプロパティ・ファイルで設定されます。アプリケーションを変換する場合、APP2JSP は **accell.properties** と呼ばれるデフォルトのアプリケーション・プロパティ・ファイルを生成します。このプロパティ・ファイルは、ACCELL/Web アプリケーションに適切な推奨されるプロパティの設定です。必要であれば、アプリケーション用に設定をカスタマイズすることができます。

実行環境で、その他のツールは同じようにそれらの実行環境を制御するためにプロパティ・ファイルを使用します。例えば、Java アプリケーション・サーバは、自身のプロパティ・ファイルを持っています。

ファイルの階層

全てのプロパティ・ファイル中に、プロパティ設定の階層が通常存在します。複数のプロパティ・ファイルに同じプロパティが見つかった場合、どの値が実際に使われるか決定する優先順位規則があります。

以下の表は、Unify 設定プロパティ・ファイルと優先順位の一覧されたものです。他の Java アプリケーション・サーバは、サーバ・サイド・プロパティの設定のために、プロパティ・ファイルでなく代替りの手段を提供することができますことに注意します。

優先順位	ファイル名	説明
このファイルの設定は、順位の低いファイルに見つかった設定を上書きします。	accell.properties ¹	ACCELL/Web アプリケーション設定プロパティ・ファイル。

このファイルの設定は、順位の低いファイルに見つかった設定を上書きします。	<code>server.properties</code> ¹	Unify eWave Engine アプリケーション・サーバ (<code>server</code> がサーバの名前である固有プロパティ・ファイル)。
最低順位	<code>host.properties</code> ¹	Unify eWave Engine アプリケーション・ホスト固有プロパティ・ファイル (ホストは、複数のサーバを実行している可能性があります。)

¹ これらのプロパティ・ファイルは、実行環境で有効となるロケールにより影響されます。詳細は、「ロケール」を参照してください。

どのプロパティ・ファイルにプロパティを設定するか決めるのは、実行環境に依存することになります。プロパティ設定が、Java アプリケーション・サーバに配置された全てのアプリケーションに適用するならば、`host.properties` ファイルに設定します。

ACCELL/Web は、いくつかのプロパティ設定のために、ユーザ設定プロパティ・ファイルを使用することができます。このファイルは、最優先されます。このファイルは最も高い優先順位を持ち、このファイルの設定は、上記の一覧されたファイルで見つかったあらゆるものを上書きする設定です。詳細については、「[ユーザ設定プロパティ・ファイル](#)」を参照してください。

アプリケーション全体のプロパティ・ファイル

アプリケーション `acell.properties` ファイルは、プロパティ割当てのために Java 定義のフォーマットを使用するテキスト・ファイルです。このファイルで設定することができる ACCELL/Web プロパティは、この章の後で説明します。

ファイルのフォーマット

プロパティ・ファイルは、名前 / 値の一組から構成されます。
例：

```
prop1 = value1
prop2 = value2
prop3 = a long value\
with a continuation line
```

値は、オプションとして、ダブルクォーテーションで囲まれる場合があります。また # 記号は、コメントマーカとして使用することができます。

APP2JSP の出力ディレクトリで、アプリケーションの **accell.properties** ファイルを確認して、更新することができます。

ACCELL/SQL 環境変数設定を継続する

ACCELL/SQL アプリケーションは多くの場合、正しく実行するために特定の環境変数の設定を必要とします。アプリケーションが ACCELL/Web に変換される場合、アプリケーションの **accell.properties** ファイルか、ユーザ固有のプロパティ・ファイルで、これらと同じ環境変数を設定する必要があります。(ユーザ設定プロパティ・ファイルは、アプリケーションの **accell.properties** ファイルの同じプロパティ設定を上書きすることを思い出してください。)

これらの変数は、以下のプロパティ・ステートメントの構文を使用して設定します。

```
Accell.Environment.<Variable> = <value>
```

例えば、ACCELL/SQL または Unify DataServer アプリケーションは、設定された DBPATH と DBNAME 環境変数を必要とします。以下は、アプリケーションの **accell.properties** ファイルでのこれらの設定の例です。

```
Accell.Environment.DBPATH = /dbs1/db  
Accell.Environment.DBNAME = acct.db
```

以下は SYBASE 用 ACCELL/SQL アプリケーションのプロパティ設定の例で、これには SYBASE、DSQUERY と、DBUSER プロパティが必要です。

```
Accell.Environment.SYBASE = /home/sybase  
Accell.Environment.DSQUERY = SYBDB  
Accell.Environment.DBUSER = admin/password
```

ユーザ設定プロパティ・ファイル

accell.properties ファイルに追加して、アプリケーションの実行プロパティを指定するユーザ設定プロパティ・ファイルを使用することができます。ユーザ設定プロパティ・ファイルは、アクセスするユーザに基づいた名前(

`user.properties`) をつけます。このプロパティ・ファイルは、アプリケーション・プロパティ・ファイルと同じフォーマットを持っています。

アプリケーション `accell.properties` ファイルで設定できるプロパティのサブセットのみが、ユーザ設定プロパティ・ファイルで設定できます。アプリケーション `accell.properties` ファイルが、Java アプリケーション・サーバ・ホストで使用されるのに対して、ユーザ設定プロパティ・ファイルは、AWAS をサポートするホスト上で使用されます。したがって、ユーザ設定プロパティ・ファイルは、そのアプリケーションが含まれる WAR パッケージには含むことができません。

ユーザ設定プロパティ・ファイルは、各 ACCELL/Web ユーザが、ユニークな環境の下で実行することを許可します。例えば、データベースにアクセスするために必要とされるログイン情報のために、DBUSER 環境変数を設定することができます。

以下のプロパティのみが、ユーザ設定プロパティ・ファイルで指定することが可能です。

- `Accell.Debug`
- `Accell.Schema`
- `Accell.FindLimit`
- `Accell.WorkingDirectory`
- `Accell.Environment.xxxx` for any environment variable setting

その他の設定が、ユーザ設定プロパティ・ファイルに存在しても、それらは無視されます。



追加ヘルプ

ユーザ設定プロパティ・ファイルには、特定の配置手順があります。詳細については、「ユーザ設定プロパティ・ファイルの配置」を参照してください。

ロケール

(Java の) プロパティ・ファイルは、`locale` 機能が組み込まれています。「foo」という名前のプロパティ ファイルを作成する場合、アプリケーションがプロパティ・ファイル「foo」からプロパティを読み込もうとする時、実行時に Java は最初にローカル固有プロパティを検索します。ユーザ設定プロパティ・ファイルは、ロケールによって影響されることはありません。

例えば、アメリカ合衆国のロケールは、[en_US_var]、[en_US]、[en] あるいは、全てのロケールがないというように指定します。Web アプリケーションについては、ロケールはブラウザから来ます。そのため、英語とフランス語でロケール固有プロパティ・ファイルを作成することができます。そして、アプリケーション・ユーザは、ロケールに対して適切なプロパティ・ファイルを得るでしょう。

この場合、以下のファイルが作成されます。

```
accel.properties_en_US
accel.properties_fr
accel.properties
```

ユーザのロケールが [en_US_var] の場合、その後 Java はこの順番でファイルを検索します。

```
accel.properties_en_US_var
accel.properties_en_US
accel.properties_en
accel.properties
```

(accel.properties_en_US) を検索して、最初に検索されるものは、使用されるプロパティ・ファイルにあります。



追加ヘルプ

ロケールについての詳細は、オペレーティング・システム・ドキュメンテーションを参照してください。

プロパティ

以下は、アルファベット順の ACCELL/Web プロパティのリストです。各プロパティは、プロパティ・ファイル：**acell.properties**、ホスト・プロパティまたはサーバ・プロパティ（Java アプリケーション・サーバに依存する）のどれでも設定することができます。プロパティの一部は、ユーザ設定プロパティ・ファイルで設定することが可能で、以下のように指定します。

Accell.Debug

true または false のプロパティ設定は、ACCELL デバッガでアプリケーションを実行するかどうかを示します。

デフォルト値 :False

このプロパティは、ユーザ設定プロパティ・ファイルで設定できます。

デバッガのサポートの情報については、追加ヘルプを参照してください。

Accell.DebugTTY

デバッガ情報が表示される TTY デバイス名に、このプロパティを設定します。例えば /dev/pts/7 です。

デフォルト値 :なし

このプロパティは、ユーザ設定プロパティ・ファイルでのみ設定が可能です。

デバッガのサポートについての詳細は、追加ヘルプを参照してください。

Accell.Encoding

このプロパティは、ランタイムでサブレットによって AWAS のソケットからデータを渡すために使用されます。デフォルトでは、Java はシステムキャラクター設定を使用しますが、それは常にマネージャーによって使用されるキャ

ラクタ設定ではありません。Accell.Encoding が指定される場合、ストリーム・リーダーとストリーム・ライタは、\$LANG によって指定されるシステム・キャラクタ設定よりも指定されたエンコーディングを使用して作成されます。これらのエンコーディング値は、正確に Java 標準エンコーディングに一致しなければなりません。例えば、Accell.Encoding=ISO8859_1 は、アメリカのデフォルトと同じように正確に動作します。

デフォルト値 : なし

Accell.Environment.ACLPATH

このプロパティは、ACCELL/SQL アプリケーション・アーカイブ (.fa) ファイルへパスを設定するために使用されます。Unix フォーマットで指定されます。例えば、/usr2/aclenv/acct:/usr2/aclenv/ship:/usr2.. 絶対パスを使用しなければなりません。

デフォルト値 : なし

このプロパティは、ユーザ設定プロパティ・ファイルで設定することができます。

Accell.ExitText

アプリケーションが終了するとき、ブラウザ・ウィンドウのメインフレームで表示される HTML 文を指定するために、このプロパティを使用します。

デフォルト値 : The application has exited.

Accell.FindLimit

-r list オプションで、変換されたフォームで Web ブラウザに返す行の最大数を設定するために、このプロパティを使用します。検索が、指定した行をオーバーする数を返す場合、Web ブラウザは、「Only the first XXX records were returned.」というメッセージを表示します。希望されたレコードを検索するために、検索基準を変更しなければならない場合があります。

デフォルト値 : 250

このプロパティは、ユーザ設定プロパティで設定することができます。

設定が大きすぎると、一部の Web ブラウザで問題の原因となるかもしれません。

Accell.Host

このプロパティは、ADMN が実行されるホストの名前を設定するために使用されます。

デフォルト値 : localhost

Accell.Link

このプロパティは、ACCELL リンク (.al) ファイルの名前を設定するために使用されます。ADMN が実行されるホスト上に、ファイルが存在しなければなりません。また、絶対パスを使用しなければなりません。

デフォルト値 : なし

Accell.Manager

このプロパティは、カスタム AWAS の名前を設定するために使用されます。値は、実行可能ファイル (実行形式) の名前だけで、パス構成を含んではいけません。

カスタム AWAS 実行可能ファイルは、ADMN へ **-mdir** 引数によって場所を指定するか、リリースの **bin** ディレクトリの中になければなりません。

Accell.OptimizelImages

メニューバーにアプリケーションのイメージが、ロードする速度を増加させるためにこのプロパティを使用します。このプロパティは、ブール値を必要とします。True に設定されると、HTTP リクエスト・イメージの有効期限はずっと未来に設定され、Web ブラウザが全てのコマンド上の有効期限を確認する必要がなくなります。

デフォルト値 : True

Accell.Port

このプロパティは、ADMN と通信するためのポートを設定するために使用されます。

デフォルト値 :4030

Accell.RunAsUser

True に設定される場合、AWAS はログイン・ユーザとして実行します。False に設定される場合、AWAS は ADMN を起動したユーザとして実行します。詳細情報については、「ACCELL/Web デーモン (ADMN)」を参照してください。ADMN が root ユーザとして実行される場合、true に設定されていなければなりません。

デフォルト値 :false

Accell.Schema

アプリケーションが、デフォルト以外の異なるスキーマにアクセスする場合、Accell.Schema プロパティは、スキーマ名に設定されていなければなりません。この結果として、[-s schema_name] を AWAS に引き渡します。

デフォルト値 :false

このプロパティは、ユーザ設定プロパティ・ファイルで設定することができます。

Accell.ValidateUser

True に設定される場合、ユーザは ADMN が動作している UNIX ホストに対して、有効なユーザ名とパスワードを使用してログインしなければなりません。

デフォルト値 :false

RunAsUser が True に設定される場合、ユーザが ValidateUser の設定に関係なく、ログインを要求される点に注意してください。

Accell.WorkingDirectory

AWAS プロセス用の作業ディレクトリを指定します。AWAS が実行されるホストのディレクトリのフルパス名でなければなりません。

デフォルト値 :*application.al* ファイルが位置するディレクトリ

個々のディレクトリでユーザのアプリケーションを実行する場合には、そのディレクトリを個々に指定します。

ADMN がアプリケーションを開始するとき、最初にこのディレクトリに移動します。

このプロパティは、ユーザ設定プロパティ・ファイルで設定することができます。

パッケージの作成

以下の2種類のパッケージが使用できます。

- WAR ファイル
- ディレクトリ構造

WAR ファイル

配置するアプリケーションが、完全な ACCELL/Web ディレクトリ・ツリーを含む必要がある場合に、WAR ファイルが使用されます。

WAR ファイルを作成するには、APP2JSP ユーティリティで生成した出力ディレクトリの全てのファイルに対して Jar を行います (Jar コマンドを使います)。例えば、出力ディレクトリが [accelljsp] の場合、下記のコマンドは **myapp.war** という名前の WAR ファイルを作成します。

```
cd accelljsp
jar -cf ../myapp.war *
```

ディレクトリ

アプリケーションの実行環境が、Java アプリケーション・サーバとして Unify eWave Engine を使用する場合、WAR ファイルの代わりに、ディレクトリ構造として Web アプリケーションを配置することができます。

この方法でアプリケーションを配置する場合は、WAR ファイルの作成ステップをはずすことになるので開発プロセスをより簡単にします。アプリケーションでのテストと再変換を繰り返すようなときに、WAR ファイルを作成し、使用するオーバーヘッドを負うことはありません。

アプリケーションの配置

この章は、ACCELL/Web アプリケーションを配置する方法を説明します。

配置環境の準備

配置環境では、Java アプリケーション・サーバ、Web サーバおよび ACCELL/Web アプリケーション・サーバをインストールして動作している必要があります。これらを、単一のホストまたは、別々のホストにインストールすることができます。

Java アプリケーション・サーバと Web サーバホスト

配置環境では、Java アプリケーション・サーバとして Unify eWave Engine を使用することができ、推奨されたサード・パーティ Web サーバを使用します。推奨されたサード・パーティ Web サーバは、Unify eWave Engine のドキュメント Before You Start に記述されています。

<http://www.unify.com/products/ewave/installdocs/BeforeYouStart.html> を参照してください。

ACCELL/Web アプリケーション・サーバ (AWAS) ホスト

ADMN プロセスは、AWAS ホストとなる配置環境のホストで実行する必要があります。ADMN は、ACCELL/Web アプリケーション・サーバへの HTTP リクエストの初めに新しい AWAS プロセスを開始する責任があります。

ADMN プロセスが Java アプリケーション・サーバと同じホストの上で実行している場合、ACCELL/Web サーバは自動的に ADMN を起動することができます。ACCELL/Web サーバが自動的に ADMN を起動する場合、ADMN プロセスは Java アプリケーション・サーバを開始した同じユーザで実行します。

ADMN プロセスが、Java アプリケーション・サーバと別のホストで実行されることになる場合、ADMN プロセスは、手動で開始する必要があります。

ADMN プロセスを手動で実行する場合には、ADMN は、AWAS プロセスがアプリケーションのセキュリティ・レベルのもとで実行するときのユーザ ID を制御するので、ADMN を実行するユーザ ID は重要となります。アプリ

ケーション・プロパティを設定することにより、AWAS プロセスを実行するユーザ ID を制御することができます。

RunAsUser プロパティを True に設定することにより、ログインするエンドユーザがどのユーザ ID で AWAS を実行するかについて制御できます。**RunAsUser** プロパティが False に設定される場合、ADMN は、AWAS プロセスが ADMN を開始したユーザ ID で実行するように設定します。

ADMN プロセスと Java アプリケーション・サーバが、別々のホストで実行する場合、ADMN が実行するホスト名を **Accell.Host** プロパティに設定する必要があります。そうでなければ、ACCELL/Web は、Java アプリケーション・サーバが実行しているホストで ADMN を見つけようとしています。

Root ユーザ/Root ユーザ以外の ADMN の動作

ADMN が Root ユーザで実行される場合、アプリケーションは **RunAsUser** プロパティを true に設定しておく必要があります。これにより、ACCELL/Web がユーザに対してログインとパスワードを要求し、その後 ADMN にその情報が有効かどうか問い合わせます。(ADMN ホスト上で) ログイン名とパスワードが有効な場合、ADMN はそのユーザで AWAS プロセスを起動します。

ADMN が Root 以外のユーザで実行される場合、アプリケーションは **RunAsUser** プロパティを、false に設定しておく必要があります。この場合、ADMN が Root 以外のユーザで実行されるので、現在実行しているユーザ ID 以外の AWAS プロセスを実行するための特権をもたないこととなります。またユーザをログインさせて有効かどうかを確認できるように、アプリケーションの **ValidateUser** プロパティを true に設定することもできます。それでも AWAS は、ADMN を開始したユーザで実行します。

手動で ADMN を起動

以下のケースのときは、ADMN を手動で起動する必要があります。

- AWAS と Java アプリケーション・サーバが、別々のホスト上にある場合
- どのユーザで ADMN を実行するか制御したい場合

コマンドライン、またはスクリプトから手動で ADMN を起動することができます。ADMN の構文は以下のとおりです。

```
ADMN [ -port port_number ] [ -mdir custom_managers_directory ]  
      [ -pdir profiles_directory ] -stop
```

-port port_number

ADMN が実行するポート番号を指定します。省略した場合、デーモンは、デフォルト・ポート 4030 を使用します。ADMN を特定のポートを使用して起動する場合は、アプリケーションのプロパティ・ファイルに、以下のアプリケーション・プロパティを追加する必要があります。
Accell.Port=< specified port >

-mdir directory

カスタム AWAS マネジャーが、実行時に位置するディレクトリを示します。デフォルトは、\$UNIREL/managers です。UNIREL は、ACCELL/SQL がインストールされたディレクトリです。

-pdir directory

ユーザ設定プロパティ・ファイルが、実行時に位置するディレクトリを示します。デフォルトは、\$UNIREL/profiles です。UNIREL は、ACCELL/SQL がインストールされたディレクトリです。

-stop

ポート上の ADMN を停止します。ADMN を特定のポートを使用して起動している場合は、ポート番号と共に **-port** 引数を指定する必要があります。そうでなければ、デフォルト・ポートが仮定されます。

ADMN の停止

ADMN を停止するには、**-stop** 引数を指定します。例えば、現在デフォルトポートで実行している ADMN プロセスを停止するには、以下のコマンドを使用します。

```
ADMN -stop
```

ユーザ設定プロパティ・ファイルの配置

ユーザ設定の *user.properties* ファイルがある場合、以下のように配置する必要があります。

1. 配置環境で AWAS ホストの *profiles* ディレクトリに、ファイルをおきます。*profile* ディレクトリは、ADMN ユーティリティに指定したディレクトリです。デフォルトでは、`$UNIREL/profiles` です。
2. ファイルが、指定された（上記のユーザ）によって所有され、オーナー以外のユーザには書き込みアクセスできない事を確認します。（所有者に対して、書き込みアクセスが必要となるわけではありません。）

例

```
chmod 644 user.properties
```

ADMN が AWAS を起動するたびに、AWAS プロセスを所有する現在のユーザ名に基づいて、ユーザ設定 *.properties* ファイルを検索します。例えば、「todd」ユーザが AWAS プロセスを所有する場合、ADMN は「todd.properties」を検索します。

プロパティ・ファイルが存在しないか、あるいはセキュリティ要件を満たさない場合、それは無視されます。

ADMN は、このファイルを見つけ出し、次に *acell.properties* のプロパティ設定で AWAS の環境を作成し、ユーザ設定プロパティ・ファイルに指定された値でそれらを上書きします。ADMN は、AWAS を開始する毎にこの処理を行います。

ADMN が Root 以外のユーザで実行される場合、ADMN を開始したユーザ所有のプロパティ・ファイルに指定されるプロファイル設定は、開始された ADMN を介してアプリケーションにアクセスするすべてのユーザで使用されます。ユーザ設定構成ファイルでのプロファイル設定は、プロパティ設定を変更したあとアプリケーションの再パッケージ及び、再配置を必要としないので *acell.properties* にとっては大変有利です。しかし、特定の設定のみを、このファイルによって上書きすることができます。



追加ヘルプ

ユーザ設定プロパティ・ファイルで、設定可能なプロパティ設定に関する詳細は、「[ユーザ設定プロパティ・ファイル](#)」を参照してください。

Unify eWave Engine

サーブレット管理ツールへのアクセス

Web アプリケーションを追加し、構成するためにサーブレット管理ツールを使用します。Web ブラウザの `http://localhost:8088/servlet/admin` で Servlet Administrator をアクセスすることができます。localhost は、アプリケーション・サーバの位置するホスト名です。



タブ	説明
----	----

管理	管理ドメインで、他のサーバと共有しているデータの管理オプションを表示します。例えば Unify eWave Engine バージョンの再ライセンス、データソースの識別やセキュリティ・エントリの設定など。
サーバ	サーバの管理オプションを表示します。例えば、管理されているアプリケーション・サーバの再起動、ログの表示、VM 設定の指定、クラスパス、Http コネクション、プーリングの設定、セッション・トラッキングとログイン機能の開始など。
Web アプリ	アプリケーション名、URL コンテキストパスや場所等の情報と共に、サーバ内での Web アプリケーション管理の構成オプションを表示。
ヘルプ	ヘルプページ、およびオンライン・ドキュメント・センターへアクセスできます。

Unify eWave Engine でのアプリケーションの配置

Unify eWave Engine で、Web アプリケーションを配置することができます。

- ディレクトリ構造：ディレクトリ構成で配置することは、カスタマイズするかもしれない Web アプリケーション・ファイルに、容易なアクセスを提供します。
- WAR ファイル：WAR ファイルで配置することは、ディレクトリ構成で配置することより簡単であるため、通常、製品環境で使用されません。

Web アプリケーションを追加するには、

1. サブレット管理ツールを開きます。
2. サブレット管理ツールで、Web アプリケーション・タブをクリックします。Web アプリケーションの構成ページが開きます。
3. Web アプリケーションの追加をクリックします。
4. Web アプリケーションの追加ページで、以下の情報を入力します。

アプリケーション名: Web アプリケーションの、ユニークな名前を入力します。

アーカイブロケーション: Web アプリケーションのディレクトリパスを入力します。これは、Web アプリケーションを含むディレクトリの絶対パスか、WAR ファイルの絶対パスです。

URL コンテキストパス: Web アプリケーションを起動するパスを入力します。選択したコンテキスト・パスが、既に Web アダプタで構成されているプレフィックスがある場合、それ以上の変更は必要ありません。そうでない場合は、Web アダプタの構成は新しいコンテキスト・パスで更新する必要があります。詳細については、Unify eWave ユーザーズガイドを参照して下さい。

5. 「送る」をクリックします。

チュートリアル Web アプリケーションの表示

Unify eWave Engine が ACCELL/SQL からインストールされた場合、完成版チュートリアルがインストール時に配置されます。サーブレット管理ツールから、チュートリアル Web アプリケーションをみることができます。

1. Windows 上でサーブレット管理ツールにアクセスするには、[スタート] > [プログラム] > [Unify eWave Engine] > [サブレット管理ツール] を選択します。UNIX の場合、Web ブラウザで `http://localhost/servlet/admin` にアクセスします。localhost は、アプリケーション・サーバが位置するホスト名です。
2. Web アプリ・タブをクリックします。Web アプリケーションの構成ページは、Web アプリケーションの構成リストに、チュートリアルが一覧され表示されます。



3. ブラウザの表示されているアプリケーションのアプリケーション・リンク・カラムの `/servlet/tutorial` URL コンテキスト・パスをクリックします。

アプリケーションの実行

この章は、アプリケーションを起動する方法、および基本的な実行時の制御（例えば、JSP ページのボタンと Web ブラウザのボタン）について説明します。

アプリケーションの実行

ログイン

ACCELL/Web は、スタティック HTML ログイン フォームを生成することができます。ユーザ ID とパスワードが有効でない場合、ログインフォームは適切なエラーメッセージで再表示されます。

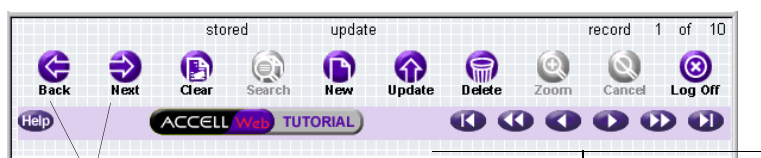
RunAsUser か ValidateUser プロパティのどちらかがアプリケーションの accell.properties に設定されている時に、ログインフォームは生成されます。

アプリケーション・フォーム

変換されたアプリケーションは、オリジナルの ACCELL/SQL アプリケーションと、同じ階層で配置される Web フォームから構成されます。

ナビゲーション

Back と Next ボタンコマンドを使用して、フォームをナビゲートします。ACCELL/Web レコード・ナビゲーションボタンを使用して、レコードをナビゲートします。



コマンドボタン：
[戻る] と [次]

レコードナビゲーションボタンは、左から右に
リストされてます。：

最初のレコード
前セット
前レコード
次レコード
次セット
最終レコード

クライアント・サイドの認証とフォーマット

以下は、ACCELL/SQL と ACCELL/Web アプリケーションでの検証の違いを一覧しています。

- ユーザがフィールドで文字を入力しているとき、検証は起こりません。ユーザがフィールドから移動したとき、検証とフォーマットエラーがただ発生します。
- 日付セパレータ・キャラクタ（デフォルトは「/」）なしで日付値を使用します。
- Printf フォーマットは、サポートしていません。

変換されたアプリケーションの管理

この章は、既存の ACCELL/Web アプリケーションの管理、およびアップグレードの方法について説明します。

ACCELL/Web のアップグレード

ACCELL/SQL 新バージョンでは、ACCELL/Web アプリケーションが使用可能な Unify ソフトウェア製品にアップグレードする必要があります。-c、-m オプションで APP2JSP、または Q2JSP 変換ユーティリティを実行して、ACCELL/Web アプリケーションをアップグレードします。どちらのユーティリティも、実行時これらのオプションを使用することにより、出力ディレクトリにリリース・ファイルをコピーします。

どのリリース・ファイルをアップグレードしたいか、選択する必要があります。例えば、変更可能なリリース・ファイルの一部をカスタマイズしていた場合、出力ディレクトリに変更不可能なリリース・ファイルをコピーするだけの -c オプションを使用する必要があります。逆に、変更可能なリリース・ファイルを全くカスタマイズしていない場合、-m オプションを使用して、全てのリリース・ファイルをアップグレードすることができます。



追加ヘルプ

変更可能なリリース・ファイルのリストについての詳細は、「出力ディレクトリを理解する」を参照してください。

変更不可能なリリース・ファイルのみのアップグレード

全ての変更可能なリリース・ファイルの変更を保持するために、変更不可能なリリース・ファイルのみが、出力ディレクトリにコピーされることを指定する必要があります。下記の変換ユーティリティを使用する場合、-c オプションを使用します。

Q2JSP あるいは APP2JSP

-c 変更不可能なファイルのみをコピーします。変更可能なファイルはそのままです。

変更可能および変更不可能なリリース・ファイルのアップグレード

全てのリリース・ファイルがカスタマイズされていない場合、変更可能および変更不可能なリリース・ファイルをアップグレードすることができます。下記の変換ユーティリティを使用する場合、-m オプションを使用します。

Q2JSP あるいは APP2JSP

- m 変更可能および変更不可能なリリース・ファイルをコピーします。変更点は上書きされます。

アップグレードする際にフォーム・ファイルに生じること

.al ファイル名を指定せず [APP2JSP -c] を実行した場合、どのフォームも再変換せずに変更不可能なリリース・ファイルをアップグレードします。また、.al ファイルを指定する場合、フォームは再変換されず（ただし、-f オプションが使用される場合を除きます）。

同様に、フォーム名を指定せず [Q2JSP -c] を実行した場合、どのフォームも再変換せずに変更不可能なリリース・ファイルをアップグレードします。フォーム名を指定する場合、それは再変換されず（ただし、-f オプションが使用される場合を除きます）。

新しいフォームの追加

ACCELL/SQL アプリケーションに新しいフォームを追加する場合、アプリケーション変換ファイルにフォーム固有セクションを手動で追加して、その後、変換ユーティリティを実行する必要があります。

`APP2JSP -f application.al`

`-f` 引数は、変換ユーティリティが、既存の `form.jsp` ファイルを上書きしないで、必要なファイルは作成されるようにします。

または、個々の新しいフォームを生成するために、`Q2JSP` ユーティリティを使用することができます。



追加ヘルプ

アプリケーション変換ファイルについての詳細は、「[アプリケーション変換ファイルの設定](#)」を参照してください。

`APP2JSP` ユーティリティについての詳細は、「[APP2JSP 変換ユーティリティの実行](#)」を参照してください。

`Q2JSP` ユーティリティについての詳細は、「[Q2JSP 変換ユーティリティの実行](#)」を参照してください。

フォームの変更

ACCELL/SQL アプリケーションで、フォームの定義（例えば、フィールドの追加、および削除）を変更するとき、Web フォームに更新を行うために変更されたフォーム上で、Q2JSP を実行することができます。これにより、既存の JSP ファイルが上書きされるため、ユーザによって行われた全てのフォームのカスタマイズが消失します。

または、生成された Web フォームを変更することが可能です。その場合、変更するために UltraDeveloper、あるいはテキスト・エディタを使用することができます。

フォームの 4GL を変更する場合、ACCELL/Web に ACCELL/SQL アプリケーションを再変換する必要がないことを覚えておいてください。



追加ヘルプ

参照

フォームのカスタマイズ	「デザイン・エレメントのカスタマイズ」
Q2JSP 変換ユーティリティの実行	「Q2JSP 変換ユーティリティの実行」

付録 A : デバッグ

ACCELL/Web アプリケーションは、ACCELL/SQL 対話型デバッガを使用することができます。デバッガ・ウィンドウは、UNIX ホストのシェル上に表示されます。

必要条件 :

- ユーザ・プロパティ・ファイル (*user.properties*) で、**Accell.Debug** を true に設定してください。
- ユーザ・プロパティ・ファイル (*user.properties*) で、**Accell.DebugTTY** を設定してください (このプロパティを、tty デバイスに設定してください)。

Accell.Debug が true に設定され、**Accell.DebugTTY** が tty デバイスに設定されると、AWAS のセッションの標準入力と出力が、指定された TTY に送られます。

以下のステップを参照してください。

1. ACCELL/SQL アプリケーションが実行しているホストに (AWAS もしくは ADMN ホスト) xterm 等のターミナル・ウィンドウを開きます。
2. [tty] コマンドを実行し、tty デバイス名 (例 : /dev/pts/7) を取得します。
3. このターミナルは、シェルで実行されているため、このシェルが入力キャラクタを処理しないように、シェルを停止する必要があります。(アプリケーションをデバッグしている間、シェルの割り込みキャラクタをタイプしないよう注意してください。そうしないと ACCELL/Web とシェルの両方が、入力のために争うことになる可能性があります)

簡単な方法は、"sleep 100000" の実行です。

4. [プロファイル] ディレクトリ (-pdir オプションで ADMN に指定される ; デフォルト \$RELDIR/profiles) で、ユーザのためのファイル ([ユーザ名].properties。他のユーザ、グループの書き込み許可なしのファイルモード :644) を作成します。このファイル中に、以下のプロパティを配置します。

```
Accell.Debug=true  
Accell.DebugTTY=<your tty device from above>
```

ACCELL/Web アプリケーションを開始するとき、入力 DebugTTY プロパティで指定されたターミナル・ウィンドウに、ACCELL/Debugger が表示されま
す。

ACCELL/Debugger が動作している間、ターミナルの割り込みシーケンス（設
定されている場合は、CTRL-C、Del）を入力しないで下さい。また、ブラウ
ザは ACCELL/SQL アプリケーション・バックエンドからのレスポンスを、
長時間待つことはできません。アプリケーションのデバッグに長時間を費や
すと、ブラウザ・リクエストはタイムアウトし、アプリケーションは継続す
ることができません。

付録 B : エラーメッセージのローカライズ

エラーメッセージは、ユーザに有効なフィードバックを提供します。テキスト・エディタで JavaScript ファイルを変更することによって ACCELL/Web のクライアント・メッセージをローカライズすることができます。

下記は、ExternalMessage.js ファイルでのメッセージ配列の例です。

```
var externalMessages = new Array
(
  "RequiredField=You must enter a value for this field",
  "FieldWidth=You have exceeded the maximum field width",
  "INVALID_FORMAT=The format specified contains an invalid
character.",
  ...
);
```

このファイルに、全てのロケールのメッセージを追加することができます。各メッセージは、フォームにあります。

```
"name.locale=text"
```

「name」は、メッセージの ID で、「locale」は "en_US"、"fr_FR" といったロケール名です。

ACCELL/Web は、標準のロケール・ルールを使用して、メッセージを検索します。カレント・ロケールが en_US_variant である場合、メッセージは以下の順序で検索されます。

```
messages_en_US_variant=name_en_US_variant
messages_en_US=name_en_US
messages_en=name_en
```

メッセージが全く検索されない場合には、ACCELL/Web によって提供されるデフォルト・メッセージが使用されます。

特殊なコーディングを行う場合は、テキスト・エディタを使用して ExternalMessages.js ファイルを編集して下さい。

ExternalMessages.js は、変更可能なリリース・ファイルの 1 つであることに注意してください。このファイルを変更し、新しい ACCELL/SQL リリースが新しいメッセージを含んでいる場合は、ローカライズしたファイルに新しいメッセージをマージする必要があります

付録 C: Q2JSP でのフォームの変換

Q2JSP 変換ユーティリティは、ACCELL/SQL アプリケーションのフォームを変換の必要があるフォームを変換することが可能です。

アプリケーションを変換するには、APP2JSP ユーティリティを使用します。

Q2JSP 変換ユーティリティの実行

Q2JSP ユーティリティは、UNIX 上のコマンドラインで実行します。ユーティリティに入力されるのは、1つのフォーム名です。

構文

標準フォームとズームフォーム用

```
Q2JSP [-d directory] [{ -c | -m }] [-n] [-p preference_file]  
      [-r {fields | list}] [-f] [-z] [-i] [form_name]
```

マスタ・アプリケーション・フォーム用には、追加オプションが必要です。

Q2JSP -a

引数

- a 変換されるフォームが、マスタ・アプリケーション・フォームであることを示します。マスタ・アプリケーション・フォームを変換する場合には、このオプションが必要です。
- c アプリケーション・メンテナンスのみに使用します。変更できない ACCELL/Web リリース・ファイルを、出力ディレクトリにコピーすることを指定します。変更可能なリリース・ファイルを、コピーする場合には **-m** オプションを使用します。
- d **ディレクトリ**
生成されたファイルを出力するディレクトリを指定します。-d オプションを省略した場合、**./accelljsp** が使用されます。
- i 指定されたフォーム名が、ファイル・サフィックス（標準フォームは **.fq**、ズーム・フォームやマスタ・アプリケーション・フォームは **.aq**）を含むことを示します。
- m アプリケーション・メンテナンスのみに使用されます。変更可能な ACCELL/Web リリース・ファイル、および変更不可能なリリース・ファ

イルすべてが出力ディレクトリへコピーされ、既存のファイルを上書きするように指定します。変更可能なリリース・ファイルに変更点があった場合は、その変更は消失します。-m を指定する場合、-c オプションの意味も含んでいます。

変更可能なリリース・ファイルのリスト：

header.jsp
header_zoom.jsp
footer.jsp
horizontalmenu.html
horizontalzoommenu.html
horizontaltextmenu.html
horizontaltextzoommenu.html
verticaltopmenu.html
verticaltopzoommenu.html
verticalmenu.html
verticalzoommenu.html
verticaltoptextmenu.html
verticaltoptextzoommenu.html
verticaltextmenu.html
verticaltextzoommenu.html
topcorner.html
ExternalMessages.js

- n 変換されるフォーム上で、遅延フィールド・イベント処理が全てのフィールドで無効となることを示します。

遅延フィールド・イベント処理についての詳細は、追加ヘルプを参照してください。

- p **プリファレンス・ファイル**
JSP ページ・エレメントのスタイルを制御するプリファレンス・ファイル名を指定します。-p オプションが省略された場合、\$UNIFY/q2jsp.cf が使用されます。

- r **フィールドまたは -r リスト**
変換されるフォーム上での、繰り返し領域のスタイルを示します。オプションは、以下の通りです。

フィールド 繰り返し領域は、テキスト・フィールドに変換されます。

リスト 繰り返し領域は、リストボックスおよびテキスト・フィールドの組み合わせに変換されます。レコード間で移動するとき、マネジャーには通知されないので、実行されるコードセクションはありません。

-r オプションを省略した場合には、フィールドが使用されます。-r を指定する場合、その後に有効なオプションが必要です。

-f `_frames.jsp` ファイルと同様に、スタイル・プリファレンスが上書きされることを示します。-f オプションは、ユーティリティの実行時に指定するフォーム名を必要としません。Q2JSP 実行時にフォーム名を指定しない場合、`_frames.jsp` ファイルは上書きされません。

-z このフォームが、ズームフォームとして扱われるべきであることを示します。ズームフォームは、プリファレンス・ファイルで定義される標準フォームとは違うスタイル・プリファレンスを使用します。省略された場合には、フォームは標準フォームとして扱われます。

フォーム名

変換されるフォームの名前です。フォーム名は、ACCELL/Web リリース・ファイルを更新するための **-c**、**-m** または **-f** オプション以外で必要です。

説明

Q2JSP が実行される環境は、ACCELL/SQL アプリケーション開発環境と一致している必要があります。そのために UNIFY、ACLPATH、その他の有効なコンフィギュレーション変数の設定を使用します。

ACCELL/Web での LANGDIR の使用は、ACCELL/SQL と同様です。LANGDIR は、オプションです。Q2JSP は、\$UNIFY および \$UNIFY/accelljsp で変換ヘルパー・ファイルを検索します。LANGDIR が設定されている場合、パスは \$UNIFY/\$LANGDIR および \$UNIFY/\$LANGDIR/accelljsp になります。

アプリケーションが、複数のプロジェクト・ディレクトリに存在する場合、Q2JSP 実行時に **-d** オプションを使用して、変換中に出力を組み合わせることが可能になります。



ヒント

開発環境から、変換のために必要なアプリケーション・ファイルを移動しないで下さい。変換プロセスは、開発環境で存在する同じ構成を必要とします。アプリケーション・ソースファイルは、変換プロセス中に変更できません。



警告

フォームを再変換するとき、(-d オプションで) 同じディレクトリに対して書き込みを行った場合、JSP ファイルは上書きされます。もし JSP ファイルをカスタマイズしていた場合には、その変更は消失します。

Q2JSP ユーティリティにより作成される出力ディレクトリは、APP2JSP ユーティリティによって作成されるものと同じです。詳細については、「アプリケーションの変換」を参照してください。

例

```
Q2JSP fcompany
```

または、

```
Q2JSP -r list fitems
```



追加ヘルプ

-c および -m オプションについての詳細は、「ACCELL/Web のアップグレード」を参照してください。

遅延フィールド・イベント処理についての詳細は、「遅延フィールド・イベント処理の有効と無効の決定」を参照してください。

繰り返し領域を変換することについての詳細は、「繰り返し領域がどのように取り扱われなければならないかを決定する」を参照してください。